BRiDGE

東北電力社誌［ブリッジ］
Vol.682
2017 5 MAY

特集

東北電力を支える プロフェッショナルのちから



CONTENTS

vol.682 2017 5

■表紙の写真から



東通村庁舎前に立つ東通村 経営企画課の宮本 憲明さん(右)と田村 一馬さん(当社出向者)。「1／東北電力」では東通村に出向し，ふるさと納税に奔走する出向社員に密着した

01 特集
東北電力を支えるプロフェッショナルのちから

06 イメージキャラクター松山ケンイチさんが当社を訪問!

07 役員人事を内定

09 平成28年度 決算の概要

11 平成28年度 電力需給実績

12 はばたけコンプラ事務局［第1回］
東北電力グループと企業倫理

13 1／東北電力 ～「よりそう」現場からのレポート～［第35回］
（出向先）東通村 経営企画課 地域戦略グループ 編

TOPICS 人財部
15 労働時間について考えよう! 前編
～時間外労働の上限値設定～

TOPICS 環境部
17 平成29年度 東北電力グループ環境月間

TOPICS 広報･地域交流部
18 地域の方々との信頼関係の構築に向けて

TOPICS グループ事業推進部
21 岩手中部（金ケ崎）工業団地向け天然ガス供給事業を開始

TOPICS 資材部 企画部 グループ事業推進部
22 調達改革委員会 平成28年度実績とポータルサイトの開設

TOPICS 研究開発センター
23 「水素製造システム」運転開始

Monthly News
24 ■カタールガス社のカリッド社長が当社経営層を表敬訪問
25 ■女川原子力発電所地域総合事務所 新事務所開所式を開催
26 ■八戸市内3事業所 蕪嶋神社再建に向け寄付金を贈呈

27 退職者の方々

DATA FILE
電力需給実績／株価･出来高

特集
Feature

東北電力を支えるプロフェッショナルの技

上司・先輩から後輩へ，脈々と受け継がれる，
当社の確かな技術・技能や精神。
それらを競い，確かめ合う場所として，
技術系各部門では，競技大会が行われています。
参加者は，職場の代表としての誇りを胸に，競技に挑み，
培ってきた技術・技能や業務の知識を披露し合います。
大会での入賞は，まさに，各部門のプロフェッショナルとしての栄冠。
その背景には，日常の取り組みや高い意識がありました。

SECTION 01

火力部門

当社の全発電出力の中で大きな割合を占める設備を有する火力部門。環境負荷を抑えながら,良質で低廉な電気を安定供給するために,日々的確な保守と運用管理が行われている。

火力部門は,毎年「火力技術競技会」を開催しています。この競技会は,運転技術を競うものと保守技術を競うものがあり,火力発電所を支える技術・技能の確実な維持・向上,自己研さんの促進による職場の活性化およびモチベーションの向上を目的として,火力技術訓練センターで行っています。

「安定供給と安全確保」の使命を果たすため,競技会を通じて自分の実力を見つめ直し,一人ひとりが挑戦する気持ちとマイプラント意識,そして責任感を持って,現場技術力を高めています。

八戸火力発電所〈澤本さん〉

いざという時に行動することの難しさ

入社以来,八戸3号機の運転,東日本大震災後の復旧・立ち上げ,そして5号機の設置や運転,コンバインドサイクル化・ガス化と,八戸火力のめまぐるしい進化に携わってきました。その中で積み上げてきた経験は,技術・技能面でも,精神的な面でも糧になっていると感じます。しかし,経験や知識があっても,“いざというときに冷静に行動する難しさ”を感じていて,小さなことですが,常に「もし○○があったらどう動くか」とシミュレーションをするよう心掛けています。



八戸火力発電所(発電)
澤本 淳さん

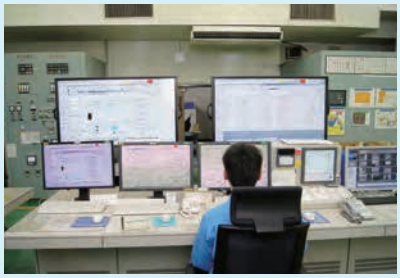
これまで以上に,自発的な行動をしていきたい

八戸3号機と5号機を比べてもそうですが,最新鋭のプラントでは,コンピュータでの制御などが進み,運転・操作に関わる人員が減ってきています。そのため,これまで以上に,運転員も自発的に発信をしていくような姿勢が必要だと考えています。競技会で見ることができた他チームの良いところなども参考にし,業務に活かしていきたいです。

澤本さんは,八戸5号機の運転に関して最も詳しく,職場では,上の世代と下の世代をつなぐ役割をよく果たしてくれていると思います。まだ始まったばかりの5号機の運転ですので,さらにノウハウを蓄えて,後輩たちにつなげていってほしいと思います。



澤本さんの先輩
八戸火力発電所(発電)
高橋 貴之さん



当社の火力発電発祥の地で,北部電源の要として安定運転に努め,さらなる運用性向上に取り組む





設備の細かいところまで全てを熟知しているからこそ,巡視点検では少しの不具合や異常も見逃さない

秋田火力発電所〈武藤さん〉

トラブル対応に必要なのは,経験と知識,そして洞察力

競技会の制御技術部門では,競技者に知らせないままにトラブルを模擬し,原因の特定に至るプロセスを競います。実際のプラントではトラブルの状況が異なるため,その都度,教えられたことや経験したことで原因を推定し,対応しています。日常業務や競技会を通して,上司・先輩からの教えの重さや技術継承の必要性を痛感し,いかに後輩に分かりやすく伝え,成長のための経験を積ませるかを考えています。



秋田火力発電所(技術)
武藤 悟さん

情報を目的のために,いかに活用するか!

担当業務は計測・制御機器の管理・保守であり,多くの情報を活用しますが,最大の目的は“安定供給”です。また,情報を計測するだけの自己満足ではなく,いかに活用するかを常に考えています。競技会やその後の火力部長との対話は,あらためて業務を見つめ直す機会となり,さらなる向上心と後輩の育成への意識が高まりました。

トラブルがあると,どうしたらよいか焦ってしまいますが,経験・知識のある先輩がいることはとても安心できます。武藤さんに分からないことを質問すると,直接的な答えではなく,ヒントを教えてくれます。ヒントを元に自分なりの考えでトラブル対応するようにしています。



武藤さんの後輩
秋田火力発電所(技術)
高橋 一喜さん



プラント制御装置でボイラー,タービンの制御信号データを解析・評価。試運転時は効率的なプラント運転になるよう設定値の調整も行う



給水加熱器レベルコントローラの制御状態を適宜確認。最適制御となるよう設定値の調整なども実施する



武藤さんは,これまでに発生した不具合を経緯が分かるようにまとめてファイリングしており,類似した不具合発生時の対処や技術継承に役立てています。

SECTION 02

土木建築部門

一つ間違えると大きな公衆災害を引き起こしかねないダム管理。規則を守り,周辺地域の安心・安全のため,気を抜くことのできない日々が続いている。



会津若松支社
会津ダム管理センター 只見川ダム管理所

梶原 翔司さん　物江 浩司土木主査　中村 卓さん

平成28年11月7日から18日にかけて,当社では初となる「ダム出水対応技術競技会」が開催されました。この競技会は,ダムゲート操作技術の向上およびダム管理に関わる人材の育成・技術継承を目的とするもので,高さが15m以上で洪水吐ゲートを有するダムを管理する8事業所の代表者が,3人1チームで技術を競いました。

競技会と合わせて開催された情報交換会では,「安心・安全に向けたわが事業所の取り組み」をテーマとし,近年大きな出水がないことに対する備えや,各事業所が抱えている課題などについて活発に議論がなされ,課題の共有化・水平展開が図られました。


情報交換会の様子

河川法で定められたダム操作規程通りの的確な操作は日頃の訓練から生まれる

競技会は,降水量に基づく河川流量の予測,河川管理者や関係市町村への通知・通報,河川流量に応じた洪水吐ゲートの操作,ダム制御システム計算機停止等のトラブル事象に関する対応などで技術力を競います。

初めての競技会であったため,どのような事象・トラブルを設定しているのか全く分かりませんでしたが,チームの一人ひとりが役割をしっかりと果たし,通常行っている訓練と同様に,落ち着いてルールに則った操作を確実に進められたことが優勝できた要因ではないかと思います。

チームワークと共有する一つの使命感

今回競技会に出場した3人は,柳津ダムを担当するチームで,日頃からコミュニケーションを大切にしています。定期的に行う設備の点検でも,一人ひとりがよく気づきフォローし合うなど,コミュニケーションを基に,よいチームワークが育まれていると感じています。前例を踏襲するだけでなく,修繕工事に新しい方法を取り入れられないかなど,工夫できることをメンバーで検討しながら進めています。

また,ダム管理業務は,降水量に大きく影響を受けるため,日々,気象情報などを確認し,過去のデータも参考にして対応することを考えています。自然現象なので,夜間・休日関係なく,出水が始まれば泊まり込みで対応することもあるため,気象状況を見て備えるなど,一人ひとりがゲート放流に伴う災害を発生させないという使命感を持って,安心・安全を最優先としてダム管理に努めています。

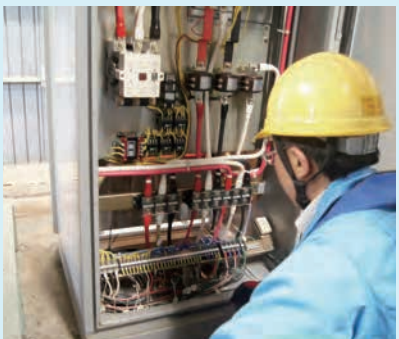
地域の方々との関係づくりも大切

ダム管理の業務は,地域の方々の理解が重要になるため,より良い関係を築き,地域に寄り添うことが大切です。

只見川ダム管理所では,積極的に地域の行事に参加し,自分たちが地域を理解すること,地域の方々から当社へご理解いただくことに努めています。昨年は,三島町が主催するバレーボール大会への参加や,「雪と火のまつり」での,会津地域で生産されたクワ茶および綿菓子作り体験を提供するブースの運営などを通して,地域の方々と触れ合いました。今後も,地域に寄り添い,地域とともに歩んでいきたいと考えています。


出水時は現地の制御室で出水処理操作を行っている


ダム遠隔監視制御室では,設備に異常がないかをモニターなどで監視している


現場では,洪水吐ゲート機側盤の配線や設定スイッチなどを確認・点検する


洪水吐ゲート巻上機のワイヤロープの固定状況や素線切れなどがないか確認

SECTION 03

電力システム部門

発電所とお客さま設備をつなぐ電力システム部門の業務。
電力を必要とするお客さまのために,どんなときでも正確で丁寧な作業が求められる。

平成29年3月14日から17日までの4日間で「平成28年度電力システム部門総合技能大会」を開催しました。技術・技能の継承や相互研さんによるさらなる技術力の向上などを目的とした,給電・変電・送電の3部門合同の技能大会となっており,今回で5回目となります。

電力システム部門では,現在,安全文化の改革に取り組んでおり,競技者は互いに声を掛け合い,安全ルールを再確認しながら確実に作業や操作を進め,技能を競い合いました。(株)ユアテック,通研電気工業(株)に模範作業や審査員で協力していただき,給電・変電・送電の各部門で優秀賞を選出しました。



操作を間違えると,人命に関わる事故となり得る。情報の伝達・共有を普段から心掛けている



普段から各種事故ケースの復旧操作を行う訓練を繰り返すことで,自分で考える力や,動き出す力を培っている



普段通りに段取り八分で競技会に臨んだおかげで,どんなときでも焦らずに落ち着いて対応できる自信が持てた

北上技術センター

自らが考え,行動することでチーム全体を活性化 責任者の指示は必要最低限に

競技会では,モデル系統が用意され,供給支障が発生したときの対応方法や対処手段の正確性などを競います。事前に配布されるモデル系統を完全に把握し,事前に全箇所の復旧方針などを検討していましたが,当日は作業停止箇所が多く設定されており,考えていたようにできません。そのようなときでも,スムーズに対応できたのは,日頃から個々が積極的に行動し,"指示に従うだけではなく,自発的に行動すること"を徹底して訓練した成果であり,競技会当日も,最低限の指示と,フォローし合う体制で的確な対応ができました。

日常業務を的確にこなすだけでなく,アンテナとなって情報を収集・発信

日常業務には,簡易な操作や電話連絡など,さほど重要ではないと思われるものもあります。しかし,それを自分一人の中に留めていては,情報は活きてきません。そのため,普段から自分の行動,目にした情報などを,声に出して周囲に伝えるように意識しており,そうした情報の共有から,チーム内でフォローし合う体制も育まれているものと思います。



給電 優秀賞

北上技術センター　制御所
古舘 功平さん　小山田 幸広主査　井上 祥太さん



適切で正確な行動のために,作業内容を全員で共有し,各々の役割を確認する

福島支店チーム

当たり前のことを,「ばか」にしないで,ちゃんとすること

発変電の業務は,少しのミスが重大災害や停電につながってしまうため,ヒューマンエラーをなくすことが大切です。作業手順を守り,安全対策を行うことは当たり前ですが,その当たり前のことを一つ一つしっかりと進めたことが,結果に結びついたと思います。

特に,コミュニケーションの基本となる"声掛け"はどのチームにも負けません。指示を大きな声で復唱したり,自分がする作業・他の人がする作業を把握することはミスをなくす第一歩。分かっている"だろう"知っている"だろう"を排除することが大切だとあらためて感じました。

「先にあること」,「仲間のこと」を常に考えて

福島支店は二つの技術センターの合同チームでしたが,事前に打ち合わせを重ね,作業の流れをシミュレーションしました。日常業務でも,どんなことが起こり得るか,それにどう対処するか事前に想定して臨むことや,顔を合わせて対話することが大切だと考えています。今後も,技術力だけでなく「気配り」,「目配り」,「心配り」ができるように人間力アップに努めたいです。



変電 優秀賞

福島技術センター
発変電業務課
佐藤 亮平さん　真木 義一さん

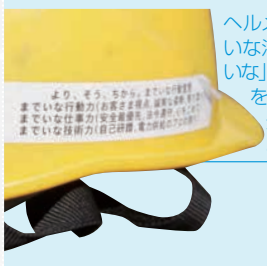
須賀川技術センター
発変電課
坂本 聖弥さん　渡邊 駿祐さん



作業は,声を掛け合いながら一つ一つ安全に進める



ケーブルの張り替え作業の訓練では,作業手順に従って,適正工具の使用や用具の使い方などを確認



ヘルメットに貼られた「までいな活動」のシール。「までいな」は,福島の方言で,手間を惜しまず丁寧に,心を込めて,じっくりと行うことを意味します。

SECTION 04

情報通信部門

数多くある当社の施設や設備同士をつなぐ通信回線。
非常災害時に必要とされる早期の初動・復旧対応のため確かな技術を伝えていく。



宮城支店　情報通信センター

通信技術グループ	通信運営グループ	通信工事グループ
馬目 勇樹さん	星 康一さん	猪瀬 道勝さん

情報通信部門では，平成29年4月19日に，10回目となる「情報通信部門技能競技大会」を開催しました。

近年，直営作業の機会が減少し，技術・技能の継承が課題となっている一方で，昨年9月に岩手県を中心に被害をもたらした大規模台風のような災害により通信回線が途絶した場合は，直営による早期の初動・復旧対応が求められます。そのため，全店の社員が集まる競技大会では，競技を通して「災害時における直営対応力」の維持・定着を図るため，災害時を想定した屋外・屋内作業や，非常災害時の対策に関する記述試験など3種目の競技を行いました。

審査の結果，優勝は宮城支店，2位は岩手支店，3位は新潟支店となりました。



屋外競技の様子。可搬型衛星通信システム活用による遠隔監視制御回線などを構成する作業



作業責任者を務めた猪瀬さんは「地道な練習が当日のトラブルへの対応にも役立った」と話す

職場一丸となったサポート体制で，競技大会3年連続優勝を果たす

競技は，制限時間内に作業を完了することを基本に，その中でいかに安全・確実な作業を行い，品質の高い状態に仕上げるかで競います。日常業務では作業をする機会が少ないため，限られた時間で作業を行うためには，事前の確認と，当日効率よく動くための役割分担がとても重要です。

競技者は3人だけですが，大会に臨むに当たり，所内でリハーサルを行い所員からアドバイスをもらうなど，職場全体が大会に向けて一体となって取り組んだ成果が，優勝に結び付いているものと思います。

想定外のトラブルにも，立ち止まり冷静に仲間をフォロー

当日は，操作するためのタブレットやパソコンなどがうまく動かないなど，想定していないトラブルもいくつか起こりました。

予定通りの工程では作業を終えられないような状況もありました。そんなときに，一人は焦らずに作業を続け，一人は冷静に不調の原因と思われるものを一つ一つ確認して解消し，一人は工程の見直しを指示するといったように，それぞれの役割をこなし，バランスのとれたチームワークを発揮して，トラブルを乗り越えることができました。

また，トラブルに見舞われた仲間のフォローができるよう，自分以外の動きも把握するよう心掛けしていたことも，当日のスムーズな動きにつながりました。



焦らずにそれぞれの役割を果たし，作業を進める

いろいろな部門と関わるからこそ，技術力とともに信頼関係も大切に

情報通信部門は，身近なところでは保安電話，発電所や変電所といった当社のさまざまな施設や設備をつなぐ通信ネットワークインフラの建設・保守を行っており，会社の中でもさまざまな部門と関わりがあります。同じネットワークといっても，用途は多様で，それぞれの目的に合った最適なサービスを提供するためには，いろいろな部門の専門的なことまでよく理解し，その上でニーズをしっかりくみ取っていく必要があり，信頼関係づくりは重要だと考えています。

職場内や関係各所とのやりとり全ての基本となるコミュニケーションを大切にしながら，技術力にさらに磨きをかけていきたいです。



活発なコミュニケーションが印象的な職場



後輩からも頼りにされ，経験や技術・ノウハウを伝えていく

SECTION 05

配電部門

お客さまと接する機会も多い配電部門。安心・安全を目に見える形で示し，お客さま・地域の方々との信頼関係をつくっていく。

平成28年11月30日，「配電部門全店技能競技大会」が総合研修センターで開催されました。今回の大会では，地震・津波被害による高圧線断線・引込線断線の復旧工事および地盤沈下の影響（地上高不足）を想定したパンザ継柱工事などにより技能を競いました。

平成28年度は，競技班の判断力向上ならびに考え抜く力の醸成をコンセプトとし，改修方法を各競技班の現地判断に委ねるなど，それぞれが工夫して競技に臨みました。競技大会当日は，事前連絡なしの突発事象（電線被覆損傷）を施し，発見後の競技班の現場対応力を高める仕掛けが取り入れられました。



安全最優先で，基本に忠実に，5Sを徹底

競技会は，作業責任者を筆頭に，さまざまな年代からなる計6人で一つのチームを結成し，技能を競います。

山形支店チームが最も大切にしたのは，安全最優先で，基本に忠実であること。例えば，車両の輪留めの付け方一つをとっても，大きな声で指差呼称を行って取り付けし，しっかりと安全を確保する行動を徹底するということです。また，競技だけではなく業務の中でも，時間の限られる中で作業を進めなければならない状況があります。そんなときでも，いつも通りの作業を，安全に，確実に，そして効率よく進めるということが必要です。そのためにも，基本となる「5S」は，今回の競技会の練習でも徹底してきました。

作業手順や工具・装備の細部に，施工品質に対する高い意識が表れた

今回の競技会は，地震や津波災害現場を想定したもので，現場にはがれきがあり，作業中も余震がある可能性も考慮し，装備や作業手順，避難経路の確保なども考える必要がありました。チームのほとんどのメンバーは東日本大震災での復旧応援なども経験しており，事前の練習でも災害現場をイメージし，必要な装備などについて意見を出し合って工夫しながら本番に臨みました。

メンバー一人ひとりの施工品質に対する高い意識があったからこそ，一つ一つの作業が丁寧に行われ，また，さまざまな事業所から集まったメンバー同士でも遠慮することなく，「こうするとより安全性が高まるのでは」，「もっと効率よく作業するためには，どうしたらよいか」と活発に意見を出し合い，“チーム力”を高めることができたと思っています。

これからの役割は，感じたことを社内外に伝えていくこと

山形支店では，前年度の競技会参加者を「コンペティショントレーナー（Cトレーナー）」として任命する制度を今年度から取り入れています。Cトレーナーは，自営業所において，競技会を通して身に付けた技術・技能や，安全作業への意識などを周囲へ伝える役割を担います。目印となる「Cトレーナーワッペン」を付けることで，作業に関するアドバイスを求められる機会や，安全確認などの場面において手本としてもらえることが増えてきました。

また，競技会を通して，歩行者や通行車両への安全対策の大切さや，しっかりと声を出し作業することは，周辺の地域の方々から当社への“信頼感・安心感”や，良い関係づくりにつながると感じるようになりました。競技会という貴重な機会を通して感じたことを，社内外に伝えていけるよう取り組んでいきます。



「競技会に参加できることも誇りに思っていたが，参加後もワッペンをつけることで身の引き締まる思い」と話す

山形支店チーム
（左から）

新庄営業所　配電課
齋藤 大さん

山形営業所　配電技術サービス課
後藤 篤志さん

長井営業所　配電グループ
富山 昌平さん

新庄営業所　配電課
毛屋 勝　配電技術長

山形営業所　配電技術サービス課
成澤 大輝さん

酒田営業所　配電技術サービス課
丹 佑二さん




安全作業心得に則った作業で，安全最優先への想いは他の支店に負けることはない


より良い品質で，手戻りのない作業を目指す

イメージキャラクター 松山ケンイチさんが当社を訪問!



東北電力ブランドのイメージキャラクターを務めていただいている松山ケンイチさんが当社を訪れ,海輪会長,原田社長と懇談しました。

東北に関連する出演作品や,当社テレビCM撮影時の現場の雰囲気,地元であるむつ市についてなど,話題は尽きず,松山さんが出身地である東北を今も大切にされていることが伝わってきました。





宮城県でのテレビCM撮影について,「現地の方々がたくさん出演してくれてとても楽しかった。楽しんでいるうちに撮影が終わったという感じ」と振り返る



東北の地域活性化に向けた取り組みに,真剣な表情で耳を傾ける松山さん。海輪会長が支店長を務めた新潟県や,原田社長の出身地である山形県についても話題にのぼった

当社社員に向けてメッセージをいただきました



東北は僕が生まれ育った地域ですので,僕自身,特別な思い入れがあります。そうした思いを大切にしながら,これからも「より、そう、ちから。」の推進力の一助となれるよう頑張りたいと思います。

松山さん ありがとうございました!

テレビCMや新聞広告で身近な存在!

松山ケンイチさんには,平成27年10月から当社のテレビCMや新聞広告などにご登場いただいています。

松山さんがテレビCMや新聞広告に登場することで,「より、そう、ちから。」の認知度は着実に上昇しており,社員の皆さんも,身近な方との会話の中で話題にのぼることもあるのではないでしょうか。



全事業所へ配布されているポスター

販促ツール

等身大パネルやパンフレットなど



テレビCM 料金プラン編 平成28年6月~



新聞広告



各種キャンペーンや,ヒートポンプ電化PRの広告

役員人事を内定

当社は4月27日に開催した取締役会において役員人事を内定し，同日開催した定例社長記者会見で発表しました。
6月28日開催の第93回定時株主総会および株主総会後の取締役会（監査役については監査役会）で決定する予定です。

取締役・監査役

役　職	氏　名	事務委嘱［分担］	前　任
取締役会長	海輪　誠		取締役会長
取締役社長	原田　宏哉		取締役社長
取締役副社長	坂本　光弘	業務全般，火力原子力本部長，コンプライアンス推進担当［考査室，ネットワーク考査室］	取締役副社長 業務全般，火力原子力本部長，コンプライアンス推進担当
取締役副社長	渡部　孝男	業務全般，火力原子力本部長代理	取締役副社長 業務全般，火力原子力本部長代理
取締役副社長	岡信　愼一	業務全般，CSR担当，IR担当，IoTイノベーション担当［原子力考査室，企画部，グループ事業推進部］	取締役副社長 業務全般，CSR担当，IR担当
取締役副社長（新任）	田苗　博	業務全般，電力ネットワーク本部長［安全保安管理室，ネットワーク安全保安管理室］	常務取締役 電力ネットワーク本部長
常務取締役	長谷川　登	火力原子力本部副本部長［秘書室，広報・地域交流部，燃料部］	常務取締役 火力原子力本部副本部長
常務取締役	山本　俊二	ビジネスサポート本部長，支店統轄（平成29年7月1日付）［ネットワーク人財部，ネットワーク総務部］	常務取締役 支店統轄
常務取締役	三浦　直人	電力ネットワーク本部副本部長［情報通信部，ネットワーク情報通信部］	常務取締役 電力ネットワーク本部副本部長

役　職	氏　名	事務委嘱［分担］	前　任
常務取締役	中野　春之	電力ネットワーク本部副本部長［ネットワーク土木建築部，ネットワークサービス部］	常務取締役 電力ネットワーク本部副本部長
常務取締役	増子　次郎	火力原子力本部副本部長［電源立地部］	常務取締役 火力原子力本部副本部長
常務取締役	樋口康二郎	火力原子力本部副本部長［環境部，土木建築部，水力部，研究開発センター］	常務取締役 火力原子力本部副本部長
常務取締役（新任）	阿部　俊徳	お客さま本部長［事業戦略部］	執行役員 東京支社長
取締役（社外）	清野　智		取締役
取締役（社外）	近藤　史朗		取締役
常任監査役	加藤　公樹		常任監査役
常任監査役	佐々木隆志		常任監査役
監査役（社外）	藤原　作弥		監査役
監査役（社外）	宇野　郁夫		監査役
監査役（社外）	馬場　千晴		監査役

上席執行役員

氏　名	事務委嘱	現役職
武田　眞二	新潟支店長	上席執行役員 新潟支店長

執　行　役　員

氏　名	事務委嘱	現役職
林　隆壽	福島支店長	執行役員 福島支店長
松岡　利彦	山形支店長	執行役員 山形支店長
千釜　章	企画部長	執行役員 企画部長
金澤　定男	東通原子力発電所長	執行役員 東通原子力発電所長
齋藤　光春	青森支店長	執行役員 火力原子力本部電源立地部長
藤原　正雄	土木建築部長（平成29年7月1日付 火力原子力本部土木建築部長）	執行役員 土木建築部長
春浪　隆夫	電力ネットワーク本部電力システム部長	執行役員 電力ネットワーク本部電力システム部長
藤倉　勝明	火力原子力本部燃料部長	執行役員 火力原子力本部燃料部長
大森　聡	宮城支店長	執行役員 宮城支店長
伊東　裕彦	お客さま本部副本部長 お客さま本部営業部長	執行役員 お客さま本部副本部長 お客さま本部営業部長

氏　名	事務委嘱	現役職
加藤　功	火力原子力本部原子力部長	執行役員 火力原子力本部原子力部長
鴇田　真孝	女川原子力発電所長	執行役員 女川原子力発電所長
工藤　和典	秋田支店長	執行役員 秋田支店長
佐々木裕司	東京支社長	執行役員 グループ事業推進部長
砂子田　智	岩手支店長	執行役員 人財部長
竹原　秀臣	情報通信部長（平成29年7月1日付 ビジネスサポート本部情報通信部長）	情報通信部長
宮本　保彦	広報・地域交流部長	広報・地域交流部長
泉田　融	電力ネットワーク本部配電部長	電力ネットワーク本部配電部長
大野　貞彦	火力原子力本部火力部長	火力原子力本部火力部長
佐藤　裕市	東新潟火力発電所長	原町火力発電所長
森　則之	火力原子力本部副本部長 女川駐在地域統括	火力原子力本部副本部長 女川駐在地域統括

執行役員待遇

氏　名	事務委嘱	現役職
渡辺　泰宏	公益財団法人東北活性化研究センター 一般社団法人日本電気協会東北支部	執行役員待遇 公益財団法人東北活性化研究センター 一般社団法人日本電気協会東北支部
庄司　雄一	東北エネルギー懇談会	執行役員待遇 東北エネルギー懇談会
八代　浩久	電気事業連合会	執行役員待遇 電気事業連合会

氏　名	事務委嘱	現役職
大江　修	一般社団法人東北経済連合会	執行役員待遇 一般社団法人東北経済連合会
倉田　雅人	会津磐子株式会社	総合研修センター所長

本店室部長等

【平成29年6月28日付】

氏　名	発　令	現役職
菅原　一成	考査室長	グループ事業推進部付 TDGビジネスサポート株式会社出向
佐々木　肇	原子力考査室長	福島支店副支店長 企画管理担当
齋藤　恭一	グループ事業推進部長	火力原子力本部原子力部部長
沼畑　秀樹	人財部長 （平成29年7月1日付 ビジネスサポート本部人財部長）	人財部副部長
岩渕　伸一	資材部長 （平成29年7月1日付 ビジネスサポート本部資材部長）	女川原子力発電所所長代理
日下部昭紀	火力原子力本部電源立地部長	石巻営業所長
工藤　英明	電力ネットワーク本部ネットワーク企画室長	電力ネットワーク本部配電部副部長 品質保証担当
菅原　敏文	研究開発センター所長	電力ネットワーク本部電力システム部副部長 システム改革担当
中村　光一	総合研修センター所長	電力ネットワーク本部配電部副部長

【平成29年7月1日付】

氏　名	発　令	現役職
板　　慎一	安全保安管理室長	火力原子力本部火力部特別専任職副部長 企画運用担当
小山　光雄	事業戦略部長	お客さま本部お客さま提案部部長
平山　成治	ビジネスサポート本部ビジネスサポート企画室長	グループ事業推進部付 株式会社ユアテック出向
近藤　文男	火力原子力本部水力部長	電力ネットワーク本部電力システム部部長
高橋　浩芳	電力ネットワーク本部ネットワーク考査室長	新潟支店副支店長兼新潟支店電力ネットワーク本部配電統括リーダー
粒来　　修	電力ネットワーク本部ネットワーク安全保安管理室長	考査室統括考査役
桑原　秀明	電力ネットワーク本部ネットワーク人財部長	人財部副部長
高野　広充	兼　電力ネットワーク本部ネットワーク総務部長	総務部長
奥田　真治	電力ネットワーク本部ネットワーク土木建築部長	土木建築部部長
佐藤　昌志	電力ネットワーク本部ネットワーク情報通信部長	グループ事業推進部付 東北インテリジェント通信株式会社出向
小東　直貴	電力ネットワーク本部ネットワークサービス部長	福島支店副支店長 お客さま本部長
小野　秀児	電力ネットワーク本部送変電建設センター所長	電力ネットワーク本部電力システム部副部長
河田　　伸	お客さま本部販売事業室長	お客さま本部お客さま提案部部長東京駐在

退任予定者

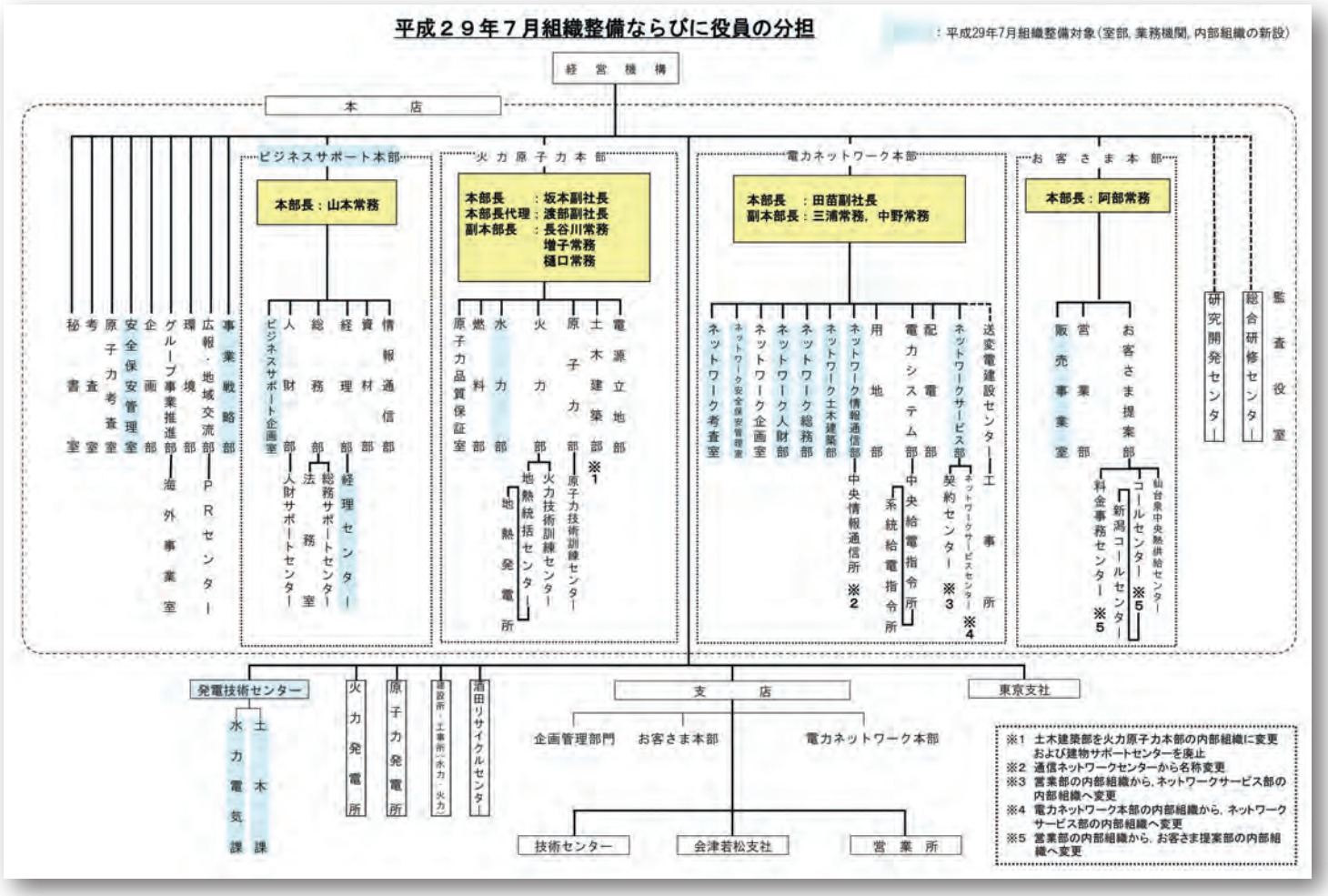
取締役

役　職	氏　名	就任先予定
取締役副社長	笹川　稔郎	東北発電工業株式会社　取締役社長
常務取締役	石森　令一	東北インフォメーション・システムズ株式会社　取締役社長

上席執行役員・執行役員・執行役員待遇

役　職	氏　名	就任先予定
上席執行役員 青森支店長	佐藤　敏秀	東北エネルギー懇談会
執行役員 東新潟火力発電所長	庄司　一夫	相馬共同火力発電株式会社　取締役社長
執行役員 岩手支店長	九萬原敏已	東北インフォメーション・システムズ株式会社　専務取締役

役　職	氏　名	就任先予定
執行役員 資材部長	只野　恵二	東北計器工業株式会社　取締役社長
執行役員待遇 株式会社インテリジェント・コスモス研究機構	小泉　　司	東北発電工業株式会社　監査役
執行役員待遇 会津磐子株式会社	及川　昌洋	株式会社ユアテック　専務取締役



平成28年度　決算の概要

連結・個別決算ともに「減収・減益」

連結決算の概要

売上高	1兆9,495億円	〈対前年度　1,460億円減〉
営業利益	1,304億円	〈対前年度　593億円減〉
経常利益	1,047億円	〈対前年度　479億円減〉
親会社株主に帰属する当期純利益	699億円	〈対前年度　273億円減〉

■連結経営成績

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
平成28年度	19,495 （△7.0%）	1,304 （△31.3%）	1,047 （△31.4%）	699 （△28.1%）
平成27年度	20,955 （△4.0%）	1,897 （11.8%）	1,526 （30.8%）	973 （27.2%）

（注）パーセント表示は，対前年度増減率

収　益

当社において，再エネ特措法交付金が増加したものの，販売電力量ならびに燃料費調整額の減少などにより電灯・電力料が減少したことなどから，売上高（営業収益）は前年度に比べ1,460億円（7.0%）減の1兆9,495億円，経常収益は前年度に比べ1,488億円（7.1%）減の1兆9,558億円となりました。

費　用

退職給付債務の算定に用いる割引率の低下などから退職給付費用が増加したものの，燃料価格の低下や円高などにより燃料費が減少したほか，経費全般にわたり効率化の実施に努めたことなどから，経常費用は前年度に比べ1,008億円（5.2%）減の1兆8,511億円となりました。

この結果，経常利益は前年度に比べ479億円（31.4%）減の1,047億円となりました。また，親会社株主に帰属する当期純利益は前年度に比べ273億円（28.1%）減の699億円となりました。

■連結財政状態

（単位：億円）

	総資産	純資産	自己資本比率
平成28年度	41,459	7,556	16.8%
平成27年度	41,524	6,843	15.2%

《平成29年度業績予想》

連結業績予想における売上高は，当社において販売電力量は減少するものの，燃料費調整額の増加などから2兆700億円程度（前年度比6.2%増）となる見通しです。

経常利益は，修繕費の減少などがあるものの，燃料費調整制度のタイムラグ影響などにより900億円程度（前年度比14.0%減）となる見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益は，600億円程度（前年度比14.2%減）となる見通しです。

【連　結】

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
通　期	20,700	1,120	900	600

【個　別】

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通　期	18,800	890	700	500

【主要諸元】

項　目	通　期
販売電力量（億kWh）	726 程度
原油CIF価格（ドル／バーレル）	55 程度
為替レート（円／ドル）	115 程度
原子力設備利用率（%）	—

【収支変動影響額】

（単位：億円）

項　目	通　期
原油CIF価格（1ドル／バーレル）	40 程度
為替レート（1円／ドル）	27 程度

個別決算の概要

売上高	1兆7,386億円	〈対前年度　1,302億円減〉
営業利益	1,001億円	〈対前年度　565億円減〉
経常利益	804億円	〈対前年度　394億円減〉
当期純利益	599億円	〈対前年度　200億円減〉

■個別経営成績

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成28年度	17,386 (△7.0%)	1,001 (△36.1%)	804 (△32.9%)	599 (△25.1%)
平成27年度	18,688 (△4.2%)	1,566 (11.5%)	1,199 (34.4%)	799 (28.0%)

(注)パーセント表示は，対前年度増減率

■個別収支比較表

（単位　億円，%）

		平成27年度(A)	平成28年度(B)	増減(B)－(A)	前年度比(B)/(A)
収益	電灯料	5,864	5,584	△279	95.2
	電力料	9,330	8,291	△1,038	88.9
	小計	15,195	13,876	△1,318	91.3
	再エネ特措法交付金	934	1,314	379	140.7
	その他	2,634	2,302	△331	87.4
	(売上高)	(18,688)	(17,386)	(△1,302)	(93.0)
	合計	18,763	17,493	△1,269	93.2
費用	人件費	1,159	1,469	309	126.7
	燃料費	3,952	3,024	△928	76.5
	修繕費	1,905	1,922	16	100.9
	減価償却費	2,230	2,065	△164	92.6
	購入電力料	4,174	3,913	△261	93.7
	支払利息	318	239	△79	75.1
	公租公課	826	816	△10	98.8
	原子力バックエンド費用	86	77	△8	89.8
	再エネ特措法納付金	962	1,374	412	142.9
	その他	1,949	1,786	△162	91.7
	合計	17,564	16,689	△875	95.0
(営業利益)		(1,566)	(1,001)	(△565)	(63.9)
経常利益		1,199	804	△394	67.1
税引前当期純利益		1,199	804	△394	67.1
法人税等		399	205	△194	51.5
当期純利益		799	599	△200	74.9

(注)記載金額は，億円未満を切り捨てて表示している

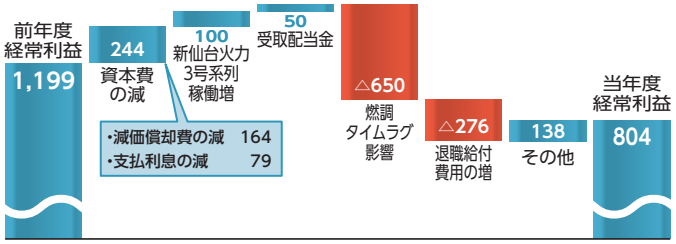
■個別財政状態

（単位：億円）

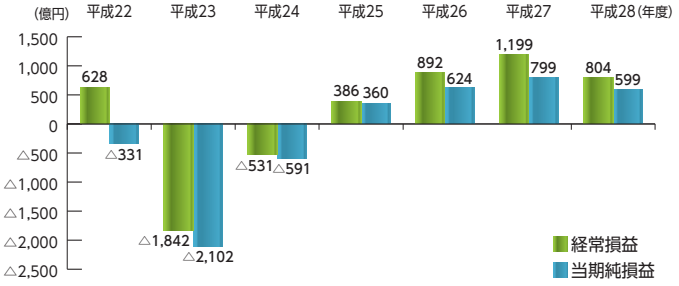
	総資産	純資産	自己資本比率
平成28年度	38,388	6,138	16.0%
平成27年度	38,418	5,657	14.7%

■経常利益(個別)の増減要因〈前年度比：394億円減少〉

（単位：億円）



■経常損益と当期純損益の推移(個別)



■収支を取り巻く環境

年度	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28
販売電力量(伸び率)	827億kWh (4.7%)	753億kWh (△8.9%)	778億kWh (3.4%)	775億kWh (△0.5%)	766億kWh (△1.1%)	751億kWh (△2.0%)	743億kWh (△1.1%)
原油CIF価格	84.2$/b	114.2$/b	113.9$/b	110.0$/b	90.4$/b	48.8$/b	47.5$/b
為替レート	86円/$	79円/$	83円/$	100円/$	110円/$	120円/$	108円/$
原子力設備利用率	72.1%	—	—	—	—	—	—
運転開始した主な発電所	仙台火力4号機 44.6万kW	新潟火力5号系列 10.9万kW	東新潟火力5号機 33.9万kW 秋田火力5号機 33.3万kW 八戸火力5号機 27.4万kW		八戸火力5号機 (コンバインドサイクル化) 27.4 ⇓ 39.4万kW	新仙台火力3号系列3-1号 49万kW	新仙台火力3号系列3-2号 49万kW

《平成28年度期末配当 20円》

当社は，利益配分については，安定的な配当を行うことを基本に，当年度の業績や中長期的な収支見通しなどを総合的に勘案し決定することを基本的な方針としています。原子力発電所の再稼働をめぐる情勢が依然として不透明な状況にあることや，電力システム改革の進展による競争激化や電力需要の伸び悩みなどの事業環境の変化，自然災害などの経営リスクがある中で，さらに事業を発展させていくためには，より強固な経営基盤を確立していく必要があります。

このような中，当年度の業績は，燃料費調整制度のタイムラグ影響が大きかった前年度を下回るものの，経費全般にわたる徹底した経営効率化に継続して取り組んできたことなどから，一定の利益水準を安定的に確保することができました。

また，今後，新たに策定した「東北電力グループ中期経営方針(2017～2020年度)」の下，東北電力グループが一体となってさらなる企業価値の向上に努めていくこととしています。

このような状況を総合的に勘案し，平成28年度の期末配当金については，1株につき20円を予定しています。なお，中間配当金15円と合わせた当年度の年間配当金は，前年度に比べ10円増の1株につき35円となります。

また，平成29年度配当については，当社を取り巻く事業環境や収支・財務体質回復の見通しなどを総合的に勘案し，中間配当および期末配当ともに1株につき20円を予定しています。

平成28年度　電力需給実績

電力需要

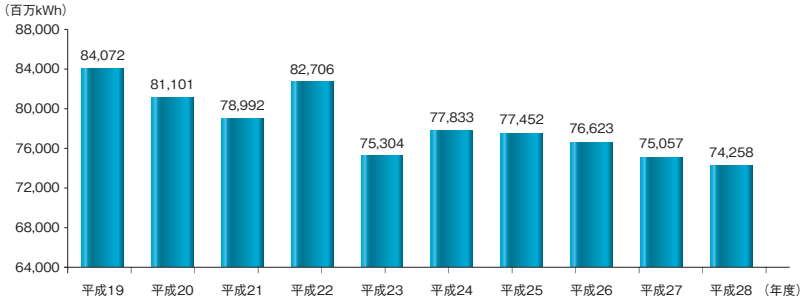
販売電力量 742億5,800万kWh〈対前年度比98.9%〉

（単位:百万kWh,%）

区分	当年度実績(A)	前年度実績(B)	前年度比(A/B)
電　灯	24,004	23,706	101.3
電　力	50,255	51,351	97.9
合計	74,258	75,057	98.9

※個々の数値の合計と合計欄の数値は,四捨五入の関係で一致しない場合があります

◆年間販売電力量の推移



平成28年度の販売電力量は,742億5,800万kWh,対前年度比98.9%の実績となり,前年に比べ夏場後半の気温が高く冬場の気温が低く推移したことによる冷暖房需要の増加があるものの,契約電力の減少などから,前年度実績を下回りました。

用途別の実績については,以下のとおりです。

○電灯

電灯は,前年に比べ夏場後半の気温が高く冬場の気温が低く推移したことによる冷暖房需要の増加などから,対前年度比101.3%と前年度実績を上回りました。

○電力

電力は,前年に比べ夏場後半の気温が高く冬場の気温が低く推移したことによる冷暖房需要の増加があるものの,契約電力の減少などから,対前年度比97.9%と前年度実績を下回りました。

供給力

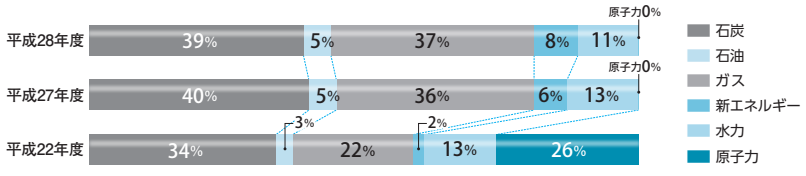
発受電電力量 810億7,000万kWh〈対前年度比98.6%〉

（単位:百万kWh,%）

区　分		当年度実績(A)	前年度実績(B)	前年度差(A-B)	前年度比(A/B)
自社	水力 自流式	6,382	7,446	△1,064	85.7
	水力 貯・揚水式	532	475	57	111.9
	水力 計	6,914	7,921	△1,007	87.3
	火力	56,346	57,212	△866	98.5
	原子力	0	0	0	-
	新エネルギー等	900	931	△31	96.7
	合計	64,160	66,064	△1,904	97.1
他社受電		22,945※	23,282	△337※	98.6※
融通		△5,988※	△7,081	1,093※	84.6※
揚水用動力		△47	△56	9	83.4
発受電合計		81,070※	82,209	△1,139※	98.6※
出水率		85.6	98.7	△13.1	-

※新電力に対するインバランスなど未確定値を含みます

◆電源構成比の推移（発電端電力量）自他社合計,融通電力量を考慮



平成28年度の発受電電力量の合計は,810億7,000万kWh,対前年度比98.6%の実績となり,前年度実績を下回りました。

| 自社水力 |

出水率85.6%の渇水となり,前年度出水率を13.1%下回ったことなどから,発電量は前年度を10億700万kWh下回る69億1,400万kWhとなりました。

| 自社火力 |

運転状況の違いなどから,発電量は前年度を8億6,600万kWh下回る563億4,600万kWhとなりました。

| 自社原子力 |

定期検査により,女川原子力発電所の全号機と東通原子力発電所1号機が運転を停止していることから,発電量はありませんでした。

| 自社新エネルギー等 |

地熱発電所の運転状況の違いなどから,発電量は前年度を3,100万kWh下回る,9億kWhとなりました。

| 他社受電 |

他社火力の運転状況の違いなどから,他社受電合計では,前年度を3億3,700万kWh下回る229億4,500万kWhとなりました。

はばたけ コンプラ事務局

― ふりかえる君とりんりん編集長のコンプラ活動日記　第三章 ―

平成27年から連載開始した「コンプラ事務局」も今年度で3年目です。今年度の企業倫理・法令遵守活動（コンプラ活動）のキーワードは，「不祥事防止の徹底」，「社会に受容される行動の遂行」，「職場における自律的活動の推進」の3つの力点について，「企業グループ大へ浸透・定着化」を図ることです。早速，ふりかえる君から報告してもらいたいと思います。

第1回 東北電力グループと企業倫理

―「東北電力グループ企業倫理・法令遵守活動方針」策定 ―

活動再開！3年目のコンプラ事務局



りんりん編集長

ふりかえる　りんりん編集長，ご無沙汰しております。ZZZ。

りんりん　相当眠そうね。大丈夫？ 今年は随分早い登場ね。どうしたの？



ふりかえる君

ふりかえる　冬眠明けですが，今年は変革と飛躍の年だけに「はばたいて」きました！ 一刻も早く報告したいことがあります！

りんりん　あなた両生類だから飛べないじゃないの（笑）報告って何？

ふりかえる　企業倫理・法令遵守の企業グループ大の活動方針が新たに作られたのです！

ふりかえるスタンプ❶ 「東北電力グループ企業倫理・法令遵守活動方針」とは？

東北電力グループCSR方針・東北電力グループ行動指針が策定されたことを踏まえ，同方針・指針と密接に関係する企業倫理・法令遵守活動について，東北電力企業グループにおける基本的な方向性を示すため，新たに「東北電力グループ企業倫理・法令遵守活動方針」を策定しました。

ふりかえる　「3つの力点」って何?という方のために次のスタンプで振り返ります。

東北電力グループ企業倫理・法令遵守活動方針の位置付け

経営理念
（東北電力グループ 経営ビジョン2020）
東北電力グループ CSR方針
東北電力グループ 行動指針
東北電力グループ 企業倫理・法令遵守活動方針

方向性を示す

各社の企業倫理・法令遵守活動計画
（＝具体的な活動内容）

3つの力点
❶「不祥事防止」の徹底
❷「社会に受容される行動」の遂行
❸「職場における自律的活動」の推進

ふりかえるスタンプ❷ 3つの力点とは？

1. 不祥事防止の徹底
東北電力グループ各社従業員の行動の原点である「東北電力グループ行動指針」に従うとともに，企業倫理・法令遵守に係わるリスクに対する感度を高める取り組みにより，不祥事防止を徹底する

2. 社会に受容される行動の遂行
「気づく・話す・直す」の基本姿勢のもと正しい価値観や判断基準に従って行動し，社会に対して誠実で確かな業務遂行を行い，地域からの信頼の維持・向上を目指す

3. 職場における自律的活動の推進
東北電力グループ各社において，企業倫理・法令遵守活動を自律的に取り組むとともに，各社における積極的な取り組みの情報発信等によりグループ全体の活動の盛り上げやレベルアップを図る



りんりん　報告ありがとう。企業グループの社員一人ひとりの「東北電力グループ企業倫理・法令遵守活動方針」に従ったコンプラ活動の実践が「より、そう、ちから。」の実現にもつながっていくということね。



ふりかえる　今年はグループ一体で飛躍の年にしていきましょう！

第35回（出向先）東通村 経営企画課 地域戦略グループ 編

とうほくでんりょくぶんのいち

1/東北電力

～「よりそう」現場からのレポート～

このコーナーは，業務紹介を通じて社員一人ひとり，業務の一つ一つが東北電力を成していることを感じていただくコーナーです。

青森県下北半島の北東部に位置する東通村。村民約6,700人の生活を守る村役場に，一人の当社社員が出向しています。村で家族と暮らし，村の人々と交流を深め，村のために汗を流す役場出向社員を取材しました。



今回の主役

村の「よいもの」を発掘し，その魅力を発信することで地方創生に取り組む役場への出向社員

（東通原子力発電所総務課付出向）
東通村 経営企画課地域戦略グループ
地域戦略グループリーダー・総括主幹

田村 一馬 さん

平成15年入社
秋田県山本郡三種町出身

出向先（東通村）での主な担当業務



- ふるさと納税（返礼品・ウェブサイト運営担当）
- 廃校舎等利活用及びこれに伴う企業誘致
- 地方創生関連全般
  （本部事務局，交付金事業策定・申請）
- おしごとセンター
  （広域シルバー人材センター）設置調査事業
- グループ内業務総括

村の地方創生に携わる



平成26年7月から東通村役場に出向し，主にふるさと納税，廃校舎等利活用，地方創生に関する業務に従事しています。出向者であるため，数年で村を離れる田村さん。最初は仕事が不慣れなこともあり，村の人々から厳しい言葉を掛けられることもありましたが，それも本気で接してくれるからこそ。地域の人々と交流を深めるうちに村への愛情もさらに深まっていったといいます。



豆知識 ふるさと納税

ふるさと納税とは，「自分の選んだ自治体に寄附（ふるさと納税）した場合，寄附額のうち2,000円を越える金額について所得税の還付および住民税の控除（ワンストップ特例制度を利用した場合は住民税の控除）という形で還元※される制度」です。自分の生まれ故郷だけでなく，お世話になった自治体や応援したい自治体など，どの自治体でもふるさと納税を行うことができます。

※還元される金額には所得および家族構成に応じた一定の上限があります。
総務省ふるさと納税ポータルサイト http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/080430_2_kojin.html

愛用品はコレ！ タオルとグローブ



イベント準備の際はゴム付きのグローブと寒立馬がデザインされたタオルを愛用しています。タオルを首や頭に巻いて，流れ落ちる汗をぬぐいながら作業するのが東通村の定番スタイルです。

東通村について

東通村は本州最北端にある青森県下北半島の北東部に位置し，面積約295.27km^2，東西約24km，南北約32kmの細長い村で，当社東通原子力発電所1号機が立地しています。北東端の尻屋崎には平成28年9月に「恋する灯台」として認定された尻屋埼灯台があり，その周辺には青森県天然記念物の寒立馬（かんだちめ）が自然放牧されています。偏東風（やませ）の影響を強く受けていることから，年平均気温が約10℃前後と夏でも冷涼な気候・風土で，蕎麦やブルーベリーの栽培が盛んなほか，黒毛和種「東通牛」が肥育されています。また，北に津軽海峡，東に太平洋と2つの海に抱かれ，魚介類と海藻類に恵まれた豊かな漁場を有しており，山海の恩恵を受けた数多くの地場産品も村の魅力の一つです。

東通村はかつて，隣接するむつ市に庁舎を設置していましたが，1988年（昭和63年）に村制施行100周年記念事業として村内砂子又地区に移転しました。職員は現在108人。当社からの出向者が在籍する経営企画課は課員10人で，経営管理G（財政），調査G（統計），商工観光G（商工業・観光），地域戦略G（企画調整・地域振興等）の4グループで構成されています。



本州最北の国定公園にある「尻屋埼灯台」



尻屋崎に自然放牧されている「寒立馬」



国重要無形民俗文化財「能舞」をはじめとする民俗芸能

ふるさと納税に奔走する

田村さんが最も力を入れてきたのが，ふるさと納税に関する業務です。東通村に寄附金が入金されると，税務住民課から寄附の内訳が記載された帳票類を受け取ります。そして，管理表に入金日を記載しながら，1枚ずつ返礼品取扱事業者に発送する発注書を作成していきます。



他のグループから入金リストを受け取りチェックする



返礼品取扱事業者への電話連絡

村の「よいもの」を発掘する

現在，村内の11企業・団体が返礼品の取扱事業者となっており，それぞれと年1回の単価契約の締結，年2回のメニュー更新について協議しています。東通村への納税者は大都市圏など遠距離の方も多いため，品物の中身だけではなく，輸送方法などにも工夫を重ね，魅力的な返礼品の開発に努めています。

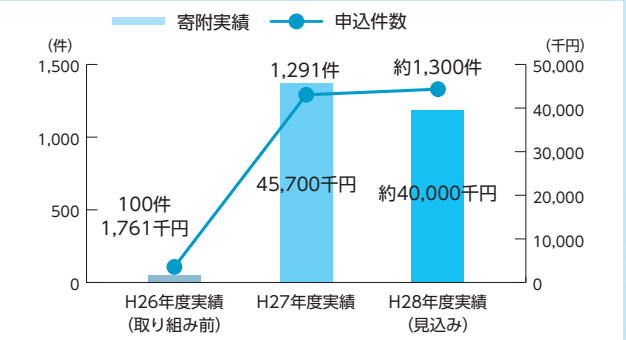


東通牛を取り扱う東通村産業振興公社の担当者と返礼品の打ち合わせ

東通村ふるさと納税の実績

目標寄附額1億円

取り組み前の26年度から，件数で10倍以上，金額にして20倍以上に実績が伸びてきました。



人気のある返礼品

平成28年度実績

No.	返礼品	寄附価格帯	申込件数
1	冷凍ブルーベリー（2kg）	10,000円～	241件
2	Higashidoori Silver 1～4※	100,000円～	141件
3	野牛のホタテ干し貝柱5本	20,000円～	100件

※黒毛和種「東通牛」の定期便。1回の申し込みで年4回返礼品を受け取れます。



オフタイム 地域イベントへの参加

夏の一大イベント「ひがしどおり来さまいフェスタ」では，山車を先導する水先案内人「サルタヒコ（天狗）」の役を任せていただいたとのこと。地域のイベントに参加することで，村内の多くの人々と交流することができました。



ふるさと納税で東通村を元気に!

ふるさと納税は生まれ故郷やお世話になった地域を寄附という形で直接応援できる制度です。

返礼品の地場産品を楽しみながら，その地域の魅力を感じることもできます。東北電力の電気のふるさと「東通村」をどうぞよろしくお願いします！



Key Person!!



東通村　経営企画課
商工観光グループ
宮本　憲明
商工観光グループ
リーダー・総括主幹

2年半前，田村さんと初めて会った印象は「秋田なまりの真っすぐでまじめな青年」でした。地方自治体の業務は当然初めてで慣れないことは多かったと思いますが，歴代の優秀な先輩方にも負けず劣らずの頑張りで取り組んでくれています。イベント設営から国の交付金事業の申請と幅広く手掛けているほか，ふるさと納税を大幅にバージョンアップしてくれたことで今では飛躍的な展開を見せています。

最初はあまりに真っすぐ過ぎましたが，私がちょっとカスタマイズして冗談も通じるようになり（笑），人の話をよく聞いて受け止めてくれる，村の行政運営になくてはならない職員に成長してくれたと感じています。私は笑いを取って地域住民に笑顔を作り出しますが，彼は仕事で地域に利益を生むことで笑顔を作り出しています。私と同じくらい東通村への熱い想いを持っている田村さんは，まさに地域に「より、そう、ちから。」になっていると言えるでしょう。

取材MEMO

ふるさと納税のしくみや返礼品の魅力を生き生きと話す田村さんは，当社の出向者というより，村役場の職員そのもの。取材先でのインタビューでは「田村さんはふるさと納税の救世主。今では申し込みが倍増ならぬ10倍以上だよ」とうれしそうに話す関係者からも信頼の深さが伝わってきました。東通村の魅力を発信し，返礼品を通じて村の良さを実感してもらうために日々奔走している田村さんの後姿は自信に満ち溢れていました。

Topics
人財部

労働時間について考えよう!

前 編 ～時間外労働の上限値設定～

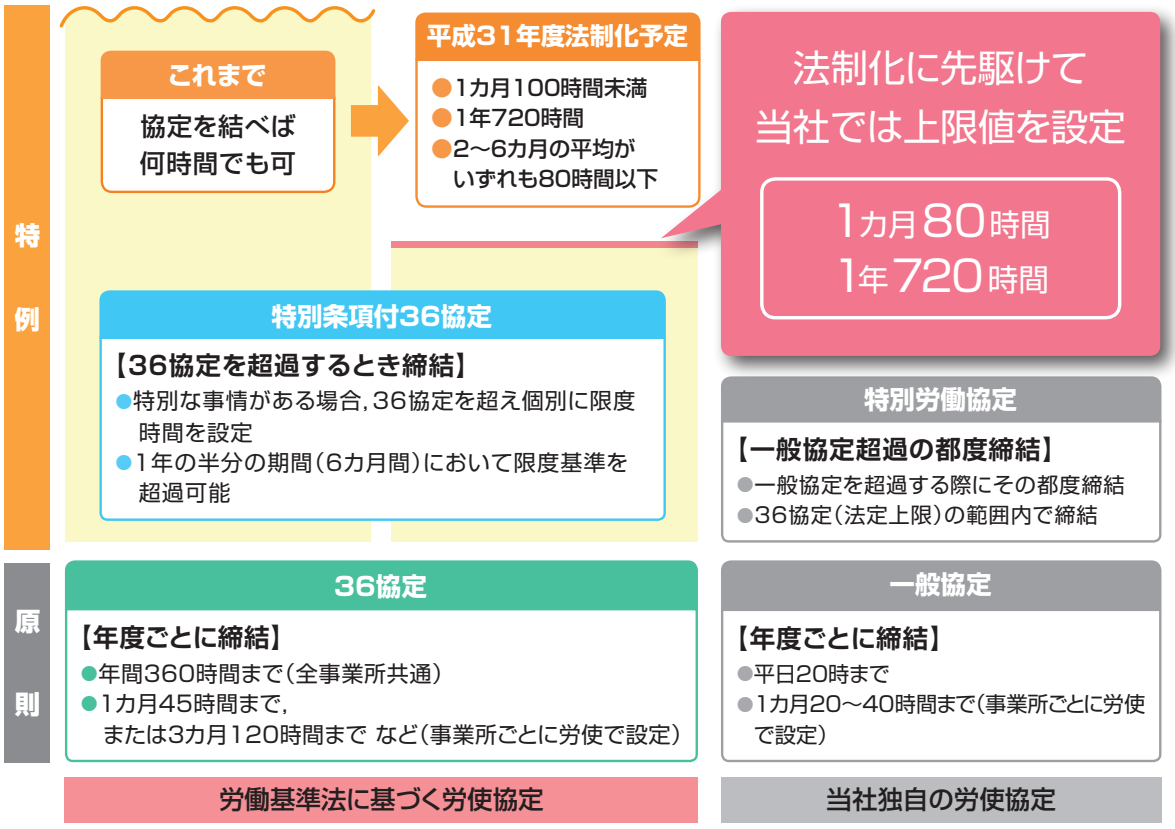
時間外労働に上限値を設定!

現在,政府において時間外労働に対する新たな規制が検討されており,平成31年度から時間外労働の上限が法制化される動きがあります。

当社は,こうした国の動きや長時間労働による健康障害防止の観点から,法制化に先駆けて労使で時間外の上限値を設定することとしました。

これまで特別条項付36協定は,労使協定の締結により何時間でも時間外労働をすることが可能でしたが,今年度は,1カ月80時間,1年720時間を上限時間とし,これを踏まえて,各事業所の労使で協議し限度時間を設定することとしました。

※平成30年度以降は別途労使で検討



「36協定」・「特別労働協定」・「一般協定」とは

労働基準法により,労働者の労働時間は1日8時間,週40時間までと定められています(法定労働時間)。法定労働時間を超えて時間外労働を行うために,労働基準法第36条に基づき労働組合と締結し,労働基準監督署に届け出ている労使協定を「36(サブロク)協定」と呼んでいます。

当社では36協定とは別に,独自に労働組合と「一般協定」を締結しています(平日は20時まで,1カ月20～40時間まで)。この一般協定を超えて時間外労働を行う場合に労働組合とその都度締結しているものが「特別労働協定(特労協定)」です。



労働時間の適正管理の重要性

時間外労働の上限値が設定されたとしても，労働時間が適正に管理されていなければ，長時間労働を是正することや社員の健康を守ることはできません。また，労働基準法は，違反に対して懲役刑や罰金刑が科される大変厳しい法律です。

所属長も所属員も，それぞれの立場から労働時間に関する基本ルールをしっかりと理解し，その遵守や適正管理に引き続き取り組むようお願いします。

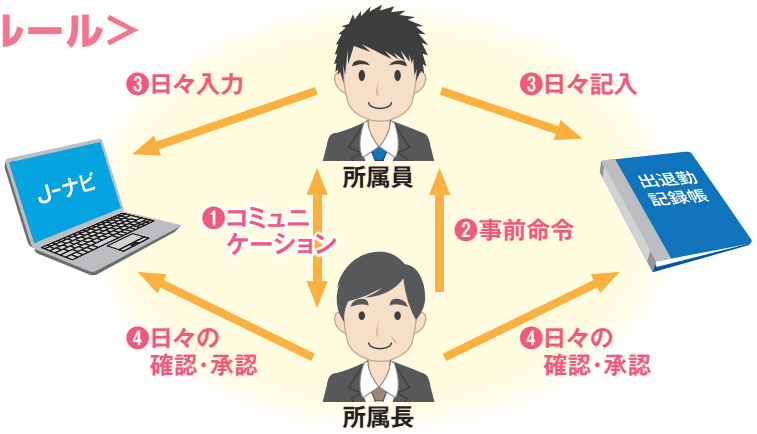
＜労働時間適正管理の基本ルール＞

❶所属長は，日常のコミュニケーションを通じて所属員の業務内容や進ちょく状況などを適切に把握する。

❷時間外労働は，所属長が必要と判断した場合に所属員へ事前命令の上行わせる。

❸所属員は，J-ナビへの時間外労働の入力と出退勤記録帳への記入を日々行う。

❹所属長は，所属員の時間外労働を日々確認し，承認する。



コラム 時間外労働を客観的に把握する仕組みとは？

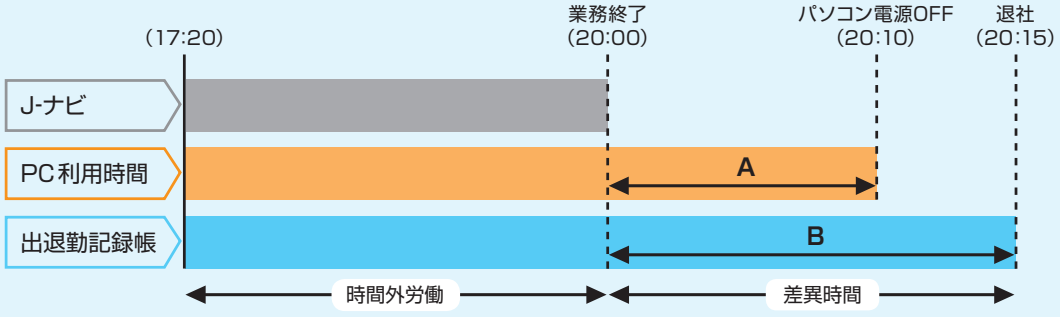
●当社では，日々の労働時間の記録・確認を「J-ナビ」による所属員の時間外労働入力と所属長の承認という方法で行っています。

●J-ナビの入力内容が適正なものであるかについては，「パソコン（PC）利用時間」という客観的データで確認・証明できるようにしています。

●しかし，全ての業務でパソコンを利用するとは限らないことから，労働時間のさらなる客観的データとして退社時間などを「出退勤記録帳」に記載し，時間外労働の申告が正しいものであることを第三者に説明できるようにしています。

所属長は，所属員の差異時間（A:業務終了時間からパソコン電源を切るまでの時間，B:業務終了時間から退社するまでの時間）の理由を確認してください。特に，差異時間が30分以上となる場合は，その理由を確実に把握するとともに，所属員に業務終了後は速やかに退社するよう促してください。







確実にパソコンの電源が切れているか確認してから退社してね！

おわりに

今後，送配電部門の法的分離に向けた組織整備など事業環境が大きく変化し，業務の錯綜が予想される中，私たちはより効率的に業務を進めていく必要があります。

6月号（後編）では，効率的に業務を進めるための取り組みについて紹介します！

Topics
環境部

平成29年度 東北電力グループ 環境月間

「環境意識のさらなる向上」と「地域社会・お客さまとの信頼関係強化」を重点に実施

- 環境省は，毎年6月の1カ月間を「環境月間」に設定し，広く国民に環境保全の大切さを啓発する活動を行っています。当社もその趣旨に賛同し，6月を「東北電力グループ環境月間」と位置付け，地域と一体となった環境保全活動を展開しています。
- 今年度の環境月間は，東北電力グループ環境方針の下，社員一人ひとりの環境意識のさらなる向上を図ること，ならびに環境を切り口とした各種活動の展開を通じて地域社会・お客さまとの信頼関係を強化し，東北電力ブランドの向上につなげることを主眼として実施していきます。

「東北電力グループ 環境講演会」の開催

例年，環境月間に合わせてグループ大の環境講演会を開催しています。今年度は，東京大学の松本真由美客員准教授をお招きし，日本を含めた各国の環境エネルギー政策の動向を踏まえ，当社に対する示唆などについてご講演いただきます。

日時　6月8日(木)15時30分～17時
場所　東北電力本店1階大会議室
演題　世界と日本の環境エネルギー政策の動向～東北電力へ期待すること
対象　当社およびグループ企業社員

講演の様子は，社内ビデオ放送システムでご覧いただけます(別途お知らせ)



講師　松本 真由美 氏
(東京大学 客員准教授)

「緑のカーテン運動」の展開

当社の環境への取り組みのPRと，地域とのコミュニケーションの推進を目的に，事業所構内での緑のカーテンの栽培や種子の配布などに取り組んでいます。今年度はゴーヤとアサガオの2種類の種を配布しています。種袋には，当社コーポレートスローガン「より、そう、ちから。」を記載し，東北電力ブランドのPR媒体としても活用しています。



昨年度の緑のカーテンの様子
(原町技術センター)



種の配布の様子
(4月:東北電力グリーンプラザ)

「ecoオフィス」活動の募集・認定・表彰

各事業所にて昨年度実施した「オフィスの省エネルギー・省資源活動」，「事業所の環境活動」について，採点の上，一定点数以上の事業所を「ecoオフィスプラス」事業所，それ以外の事業所を「ecoオフィス」事業所として認定します。また，各事業所の取り組みを，BRIDGEなどに掲載するほか，当社ホームページ内「エコログ」で社外にも発信し，当社の環境活動をアピールします。各事業所の積極的なご応募をお待ちしています。

植栽・植樹などの活動

各事業所での植栽・植樹活動のほか，当社企業グループ大で，東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた海岸防災林の再生に向けて，「海岸防災林復活活動」を行っています。昨年度から始めた，当社企業グループが主体となる植樹活動「東北電力グループ 相馬希望の森」を5月25日に行います。



昨年度の「東北電力グループ 相馬希望の森」植樹活動の様子(福島県相馬市)

「東北電力×エコファミリーしんぶん 小学生エコイラスト展」の開催

開催日:5月30日～6月4日　場所:東北電力グリーンプラザ

小学生が描く環境をテーマ(「乗ってみたいな 未来のエコな乗り物」)としたイラスト展示を通して，子育て層や次世代層に対し，当社の環境への取り組みを訴求します。なお，例年実施してきた「エコライフパーク」に代わる環境イベントとして，小学4～6年生の児童および保護者を対象とした「エコバスツアー」を夏休み期間中に別途，計画しています。

各事業所における環境活動の実施

環境月間を中心に，各事業所は地域の方々と共に清掃活動などの環境保全活動や，エネルギー・環境に関する理解活動を実施します。

Topics
広報・地域交流部

地域の方々との信頼関係の構築に向けて

「リスクコミュニケーション研修」を実施（下）

広報・地域交流部および宮城支店では，東北大学名誉教授の北村正晴氏ならびに大阪大学准教授の八木絵香氏を講師としてお招きし，「リスクコミュニケーション研修」を実施しました。前月号の八木先生に続き，今月号では北村先生の講義のポイントをお伝えします。



講師

東北大学名誉教授，
株式会社テムス研究所
代表取締役所長

北村　正晴氏

- 当社の「原子力のあり方に関する有識者会議」座長
- 専門は，原子力安全工学，計測工学，ヒューマンファクター，リスク評価・管理学
- 近年は，科学技術と社会の関係をより良いものとするために，「科学技術コミュニケーションの実践研究」を企画・実践。女川町や六ヶ所村など原子力立地地域で「原子力技術に関わる諸問題」を題材として，住民との直接対話を推進している

対話の世界へ

私は，長年にわたり原子力についての教育・研究に従事してきました。基本的な立場としては「日本には原子力発電があった方がいい」と考えています。しかし，それと同時に，「市民の納得がどうしても得られない場合には，どんな技術も社会から退場しなくてはならない」とも考えています。だからこそ，大学や学会というアカデミックな世界から一歩踏み出すことを決意し，専門でもなく経験もしていない対話活動を一般の方々（特に立地地域にお住まいの方々）と行ってきました。本日は，その過程で学ぶことができた「実践知」とでもいうべきものについてお話ししたいと思います。

対話は「傾聴」から

まず，原子力への信頼が大きく損なわれていることをしっかり認識してください。この信頼構築が中長期的に大切な課題です。その上で，対話の基本は「傾聴」であることも理解していただきたいのです。

人は，自分の言いたいことや聞きたいことをストレートに言葉にするとは限りません。また，「言葉で表した疑問」への回答だけを求めているわけではなく，本当に気になっていることを間接的な言い方で表現していることもあります。相手の方の発言をそのまま受け止めるだけではなく，言葉の奥にある本音をくみ取る必要があります。どのような不安や懸念を持っているのかをしっかりと聴き，感じ取ること，それが対話の出発点です。



「技術の歴史」を踏まえて

原子力関係者は，原子力発電が十分に安全であると考えています。それはもちろん結構です。しかし一方で，これまで国内外で発生した原子力事故を時系列の形で眺めてみてください。スリーマイル島原子力発電所事故（1979年），チェルノブイリ原子力発電所事故（1986年）に加え，JCO事故[※1]（1999年），関西電力美浜発電所3号機事故[※2]（2004年），そして東京電力福島第一原子力発電所事故（2011年）という事故の流れをたどれば，一般の方々が原子力発電に不安を感じることは当たり前ではないでしょうか。

これらの事故にはそれなりの理由があり，対処策も導入されていることはご承知のとおりです。しかし，数年ごとに深刻な事故を経験し，懸念や不信を深めている一般の方々に対して，「対策を施しましたから安全です」，「安全なのだから再稼働を了解してください」と主張しても，納得していただくことはなかなか難しいと思います。一般の方々が不安に感じられていることを，実感として受け入れてから，安全対策の説明に進むのが順序として望ましいと思います。

※1　核燃料加工中にウラン溶液が臨界状態に達し，核分裂連鎖反応が発生。至近距離で中性子線を浴びた作業員3人中2人が死亡，1人が重症となったほか，667人の被ばく者を出した。
※2　タービン建屋内の配管が破損。付近で作業をしていた協力会社社員が，流出した蒸気および高温水により被災し5人が死亡，6人が負傷した。



抽象論ではなく具体論で

「事故が起きたらとんでもない大災害になることを知ってしまった今，原子力発電所の再稼働は絶対に認められない」と言われた場合，皆さんならどう対応されますか。「十分な安全対策をしましたから，今後は大事故など起きません」という説明では，「安全神話を繰り返すのか」と批判を受けることでしょう。

「安全か危険か」，「事故は起こるのか起こらないのか」といった抽象的な議論は避けることが一つのやり方でしょう。抽象的な議論は，平行線のままの水掛け論となり，どうしても対立が解消しないままになりがちです。抽象的な質問をされた場合には，「どんなことを危険と感じていますか?」，「具体的には何が不安ですか?」などと質問をしながら，客観的な事実に基づき具体的に回答するよう心掛けてください。なかなか納得が得られない場合でも，「福島第一原子力発電所事故以前の状態に比べれば，安全性は格段に高まっている」ということだけは，何とかお伝えできると思います。まずはそこまででもよいのです。見方を少しだけ変えていただくことから始めるべきでしょう。



反論より事実の確認を

「もんじゅの廃止が決まり，使用済燃料再処理工場も稼働していない。核燃料サイクル路線は完全に破綻した。原子力の将来はなく，脱原発が当然である」という原子力全面否定の見解もしばしば聞かれます。この種の原子力批判に対しても，抽象的に反論をすることには意味がないと思います。

もんじゅ自体については廃止の意思決定がなされましたが，政府が高速炉路線を捨ててしまった訳ではないことも事実です。再処理工場に関しても，ガラス固化体の製造実績があり，失敗ではないことを指摘できます。高レベル放射性廃棄物の最終処分に関しては，技術的対策には一定の目処が立っていて，社会的に受け入れられるよう時間を掛けて解決を図っている状況と言えます。「全て失敗している」という行き過ぎた主張に対して，「原子力は十分に安全かつ有用」と反論するのではなく，事実を明示することが現実的だと思います。



説明時のポイント

原子力について説明する際に，何の断りもなく専門用語を使用することは，ぜひ避けてください。私も経験がありますが，どんなに注意していても，いろいろな場でつい専門用語が出てしまうものです。しかし，一般の方々は必ずしもそうとは思わず，「分かってほしいと思っていない」，「ごまかそうとしている」と受け止める場合もあります。専門用語はできるだけ使わないで説明できるよう，普段から身近な方を相手に練習するとよいでしょう。

また，説明はなるべく簡潔にしてください。一般に技術者は正確さに欠ける表現を嫌うため，限定条件を入れながら詳しく説明したがります（「…という場合は…となりますが，…であれば…となります」）。そうすると，どうしても言い回しがくどくなり，分かりにくくなってしまいます。慣れないと難しいかもしれませんが，まずは分かりやすさを重視し，簡潔に説明してください。その上で，相手の方の関心や問題意識を確認し，必要に応じて詳しい説明を加えるとよいでしょう。

対話からの展望

東京電力福島第一原子力発電所の事故により，原子力に対する信頼は大きく損なわれました。「信頼の再構築」なしには，原子力と国民の共存は極めて困難です。その第一歩は遠回りに見えてもやはり「対話」だと思います。

依然として，原子力に否定的な世論や報道論調が続いています。弱気になることもあるかもしれませんが，対話を通じて地域の方々の意識が変わることもあります。実際，私が対話活動を行ってきた地域でも，原子力に対する賛成・反対といった立場を超えて，共感や感銘を獲得できることもありました。原子力に否定的な意見をお持ちの方にも，虚心坦懐に向き合って真摯な対話を試みてください。まどろっこしく感じられるかも知れませんが，損なわれた信頼を再構築することは本来困難な課題なのです。このような地道な実践を繰り返すことで，相手の方の意見が直ちには変わらなくても，原子力に対する理解が変化したり，東北電力に対する信頼感が増すこともあると思います。

北村先生からの講義のポイント

- 対話の基本は「傾聴」。どのような不安や懸念を持っているのかをしっかりと聴き，感じ取ることが，対話の出発点。
- 一般の方々が不安に感じていることを実感として受け入れてから，安全対策の説明に進むのが順序として望ましい。
- 信頼の再構築は「対話」から。真摯な対話が理解や信頼につながる。

Topics
グループ事業推進部

岩手中部(金ケ崎)工業団地向け天然ガス供給事業を開始

当社は,4月より,岩手中部(金ケ崎)工業団地のトヨタ自動車東日本(株)岩手工場への天然ガスの供給を開始しました。それに合わせて,4月3日,当社が手配した最初のLNG(液化天然ガス)ローリー車が,同工場に到着しました。

当社は,天然ガス供給に当たり,同工場の敷地の一部を貸与いただき,同社が保有する気化設備,LNG貯槽等(総称してLNGサテライト設備)を譲り受け,天然ガス供給を実施しています。また,同工場に隣接する(株)デンソー岩手へも,平成29年秋ごろを目途に天然ガス供給を開始する予定であり,今後,当社で新たにLNGサテライト設備を増設する予定です。こうしたLNG気化後の天然ガスを複数のお客さまに供給する方式を,「LNG共同サテライト方式」と呼んでいます。なお,今回の天然ガスの供給開始に当たり,当社は改正ガス事業法に基づき,1月19日に経済産業大臣に対してガス小売事業の登録申請を行い,2月23日に登録が完了しました。

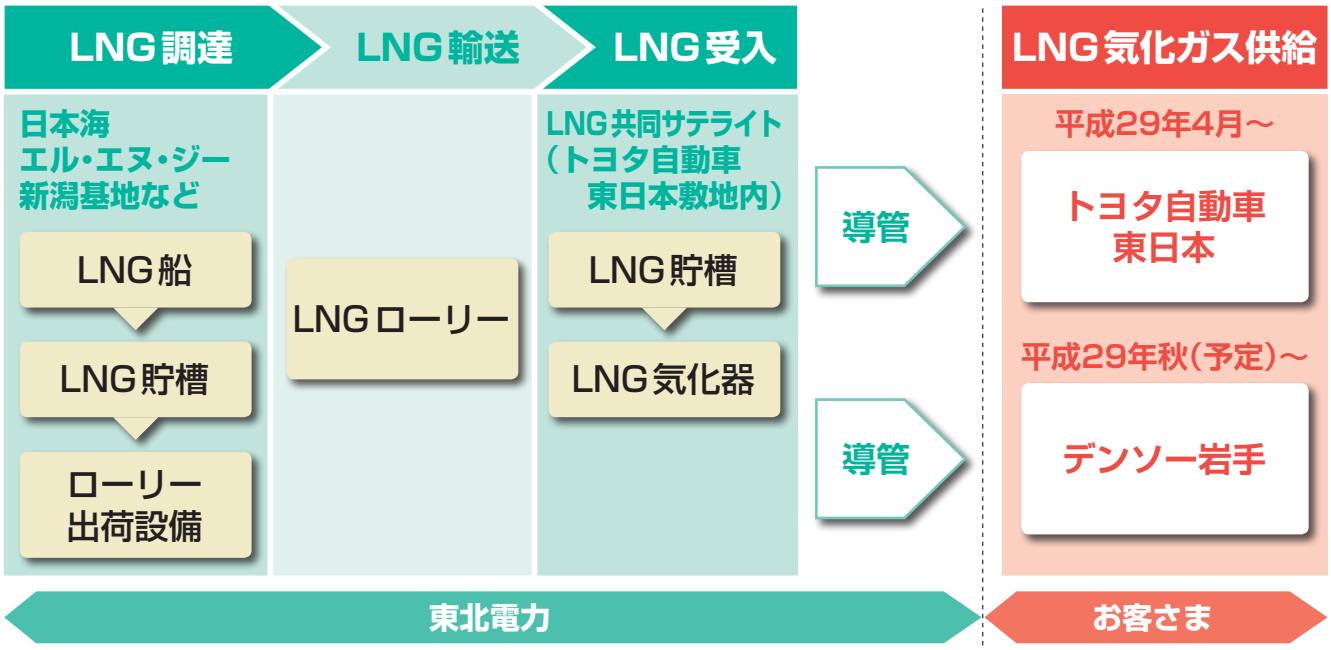
同工場への天然ガス供給における原料については,主に,当社が調達したLNGを当社企業グループの日本海エル・エヌ・ジー(株)新潟基地からLNGローリー車で輸送していますが,LNG燃料設備のある新仙台火力発電所から出荷できるよう,同発電所内に新たに出荷設備を設置し,平成30年度下期ごろを目途に出荷を開始する予定です。

当社は,今後もお客さまニーズにお応えするため,電力供給に加え,東北天然ガス(株)を中心としたガス供給も含めたトータルエネルギーソリューションサービスの充実を図ることで,東北・新潟のエネルギー利用の多様化や高効率化などに寄与していくこととしています。



最初のLNGローリー車の受け入れを迎えた当社LNGサテライト設備

今回の天然ガス供給スキーム



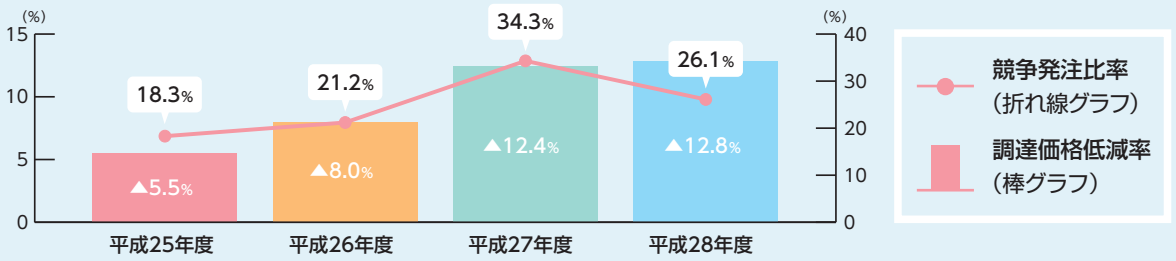
Topics

資材部 企画部
グループ事業推進部

調達改革委員会
平成28年度実績とポータルサイトの開設

平成28年度実績

■平成28年度は，調達価格低減率12.8%，競争発注比率26.1%となりました。
（平成27年度の競争発注比率の上昇は，大規模件名の競争化などによる）



■今後は，これまでの取り組みの定着化・全社展開や，持続的効率化を可能にする組織能力・体制・インフラの整備，さらなる競争力強化と透明性の向上を検討するなど，第Ⅱ期目標の達成に向け取り組んでいきます。

目標（第Ⅱ期）

平成30年度末までに
・調達価格を15%低減
・競争発注比率を35%※程度まで拡大
※うち送配電部門は50%

ポータルサイトの開設

■調達改革に関するこれまでの取り組み，今後の検討内容などを全社展開するため，調達改革事務局から定期的に情報を発信するツールとして，全社員が閲覧可能なポータルサイトをH.A.N.D.S. 上に5月末ごろ開設する予定です。

ポータルサイトの内容

●**全社員向け**
調達改革委員会の概要（必要性・目標・体制）
調達改革の取り組み
プレス情報

●**調達改革関係者向け**
調達改革に関するお知らせ
テキストブック
部門別フォルダ



【ポータルサイト(イメージ)】

テキストブックって何?

■テキストブックとは・・・

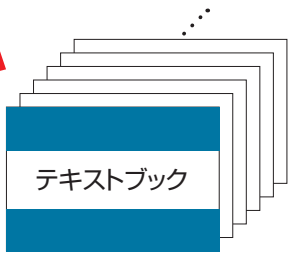
●第Ⅰ期の取り組みの継続実施および新たな施策検討・水平展開を定着化するため，主管部門※と資材部門が協働で，第Ⅰ期の効率化事例を取りまとめたツールです。※土木建築部・情報通信部・火力部・原子力部・電力システム部 配電部

【第Ⅰ期の効率化事例】

「買い方」を変える
・競争発注の拡大
・発注の集約・均平化
・外部との共同調達 など

「買うモノ」を変える
・設計・仕様の見直し など

「買う量」を変える
・設備維持のメンテナンス基準の見直し
・業務水準の見直し など



テキストブックの内容

件名・品目別取り組み一覧	件名・品目別に，これまで検討・実施した施策を網羅した一覧表
施策別資料	第Ⅰ期で検討した各施策ごとに，施策の内容・ポイントなどを体系的にまとめた資料
件名・品目別具体事例	成功事例について，実施手順レベルまで記載した件名・品目別の具体事例資料

■全社展開・浸透活動（今年度の取り組み）

●調達改革に関わる全社員にテキストブックを活用いただけるよう，各種説明会を実施していきます。

Topics
研究開発センター

「水素製造システム」運転開始



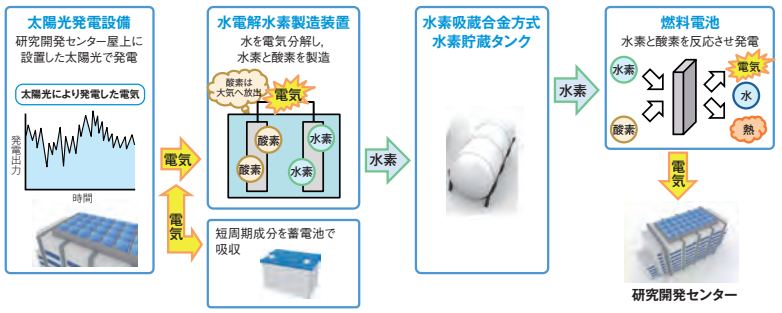
3月23日，研究開発センターにおいて，「水素製造システム」の運転が開始されました。このシステムは，太陽光発電設備や水素製造装置などで構成された小規模試験用設備です。太陽光発電による電気を用いて水素を製造・貯蔵し，製造した水素は燃料電池で発電に利用され，この電気は研究開発センターで消費します。

「水素製造システム」設置の目的 ― 再生可能エネルギーのさらなる導入拡大に向けて ―

再生可能エネルギーの導入拡大にあたっては，気象条件による出力変動の調整が課題となっています。これまで当社では，再生可能エネルギーの導入拡大に向け，国の実証事業として，蓄電池を活用した出力変動対策に取り組んできました。

今回運用を開始した「水素製造システム」を活用し，出力変動の大きい再生可能エネルギーの電気を水素製造に使用し，吸収することで，再生可能エネルギーの導入拡大に伴う出力変動対策として，水素製造技術が適用可能か検証します。

■水素製造システムのイメージ





屋上に太陽光発電設備を設置



水電解水素製造装置，水素貯蔵タンク，燃料電池ほかをコンテナ方式で設置

項　目	仕様，規模等	
設置場所	研究開発センター（仙台市青葉区）	
設置面積	約400m²	
設備規模	太陽光発電設備	50kW
	蓄電池	50kW，67kWh
	水電解水素製造装置	5Nm³/h
	水素吸蔵合金方式 水素貯蔵タンク	220Nm³（放電 約300kWh相当）
	燃料電池	9.9kW
研究期間	平成29年3月～平成31年3月	

水素製造システム「竣工式」を開催

4月13日，水素製造システムの竣工式が開催されました。来賓として，宮城県環境生活部長や工事関係者，当社からは笹川副社長，中野常務らが出席し，今後の安全運転を祈願する神事や，運転開始のセレモニーなどが執り行われました。



あいさつをする笹川副社長



運転開始セレモニーでのテープカットの様子

見学について

当社の環境施策や再生可能エネルギー導入拡大に向けた取り組みについてご理解をいただくため，見学を受け入れています。

■見学可能日時
毎週火曜・木曜（午前・午後各2組）
10～12時，14～16時

■見学内容
- 研究開発センター概要説明
- 水素製造システムの概要説明・設備見学

■申込方法
H.A.N.D.S.研究開発センターポータルサイトの見学案内より申し込み

カタールガス社のカリッド社長が当社経営層を表敬訪問

4月6日,当社がLNGを購入しているカタールガス社のカリッド社長が本店を訪れ,原田社長,長谷川常務と懇談しました。

原田社長は,日頃のLNGの安定供給に感謝の意を表するとともに,平成9年にカタールから日本へのLNG輸出が開始されてから今年で20周年を迎えたことに対してお祝いを述べました。また,今年1月に策定した中期経営方針に触れ,厳しい経営環境下における当社の競争力強化のため,安定性・経済性・弾力性に優れたLNG供給の継続をお願いしました。

これに対して,カリッド社長は,当社の事業環境への理解を示した上で,当社との良好な関係を今後とも継続していきたいと述べるなど,両者の信頼関係があらためて確認されました。

当社は現在,カタールガス社との間で二つの長期売買契約を締結しており,今年度の計画では,同社よりLNG所要量の約13%(約61万t)を調達する予定です。


面談は和やかな雰囲気の中行われた

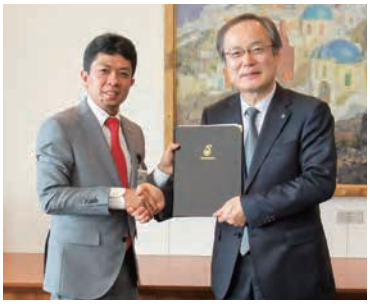
ペトロナスLNG社アドリー社長が当社経営層を表敬訪問

4月7日,当社がLNGを購入している,ペトロナスLNG社(以下PLSB社)のアドリー社長が本店を訪れ,坂本副社長,長谷川常務と懇談しました。また,今般,本年9月に契約満了となる短期売買契約の延長に関して基本合意に至ったことを受け,アドリー社長から坂本副社長に基本合意書が手渡されました。

坂本副社長は,今回の契約延長協議における,PLSB社の当社への理解・協力に謝辞を述べるとともに,今後の安定供給の継続をお願いしました。

これに対して,アドリー社長は,安定供給に加え,経済性・弾力性のより一層の向上により今後も当社への信頼性を高めていきたいと述べるなど,両者の信頼関係があらためて確認されました。

当社は,PLSB社を含むマレーシアのLNG売主との間で二つの長期売買契約と一つの短期売買契約を締結しており,今年度の計画では,同国よりLNG所要量の約24%(約108万t)を調達する予定です。


アドリー社長から,基本合意書が手渡された

秋田火力発電所「エンフィールド原油 契約満了記念式典」を開催

4月12日,秋田火力発電所の3号桟橋に着岸している油タンカー「オーシャンアコード」船内において,エンフィールド原油(豪州)の契約満了による記念式典が執り行われました。

エンフィールド油田は,西豪州パース沖合の海上に位置し,平成18年に生産を開始しました。当社は,平成19年度スポットで2隻分受け入れ後,平成20年度に定量受入契約を結びました。約10年の契約期中の受入量は合計約93万kℓとなり,当社の安定供給の一翼を担っていただきました。(うち秋田火力分84万kℓ)

本油田は,可採埋蔵量の減衰などのため今年11月に生産終了の予定であり,当社との契約も満了となることから式典を実施したもので,商社や船舶会社,荷役会社および燃料部,秋田火力発電所の関係者ら約20人が参加しました。


「オーシャンアコード」を背景に,関係者による記念撮影

東新潟火力発電所「図書寄贈目録贈呈式」を開催

3月22日,東新潟火力発電所は,聖籠町と「図書寄贈目録贈呈式」を開催しました。

今回の図書寄贈は,当社火力部門創立60周年と聖籠町町制施行40周年を記念して実施するもので,図書188冊が,町立図書館や小中学校4校に贈呈されました。

目録贈呈式当日は,渡邊聖籠町長のほか,聖籠町教育長,4小中学校の校長先生,聖籠町立図書館長,児童代表など16人が出席し,庄司東新潟火力発電所長から渡邊町長へ,長年のご理解・ご協力に対する感謝の言葉とともに目録を贈呈しました。

庄司所長は「未来を担う子どもたちがいろいろな図書に触れて楽しむことで想像力を豊かにして,個性や夢が大きく育まれることを願う」とあいさつし,児童代表からは,お礼の言葉とともに,校内における読書推進の取り組みの紹介などがありました。



児童代表との記念撮影(前列左:庄司所長,前列右:渡邊町長)

女川原子力発電所地域総合事務所 新事務所開所式を開催

4月6日，女川原子力発電所地域総合事務所の新事務所開所式が，同事務所多目的スペースで開催されました。当日は，坂本副社長をはじめとする当社関係者，来賓として，須田女川町長などの地域の方々，合わせて約70人が出席しました。

式典において，坂本副社長は，「原子力発電には何より地域住民の皆さまとの信頼が大事である。新事務所を拠点に，これまで以上に密に地域と寄り添っていく」とあいさつを述べました。続いて，来賓の方々から祝辞をいただいた後，井上地域総合事務所長から「発電所のあゆみと事務所の変遷」について説明を行ったほか，白山神社女川実業団による獅子振りなども披露されました。

地域総合事務所は，東日本大震災により，旧事務所（女川町女川浜）が被災したことから，仮設事務所（同町針浜）で業務を行ってきました。その後，女川町の土地区画整理事業の中で，女川町中心部の商業エリアの一画に仮換地指定を受けたことから，事務所を新築移転したものです。新事務所は，鉄骨造3階建て（延床面積：約1,080㎡），1階が多目的スペースと原子力情報スペース，2・3階が事務室や会議室，書庫となっています。

新事務所の建設に当たっては，建物の色彩を工夫したり，植栽を施すなど，女川町が進めるまちづくりの景観との調和を図るとともに，雄勝スレートや女川町の木である杉材など地元材の活用等を通じて，地域との共生を図っています。

地域総合事務所は，女川原子力発電所の再稼働に向け，最前線の一つとして地域対応を行っていますが，新事務所の完成を機に，今まで以上に地域の皆さまからより大きな信頼をいただけるよう業務に取り組んでいくこととしています。


主催者あいさつに立つ坂本副社長


新事務所の外観

（公社）地盤工学会東北支部 平成28年度支部賞を受賞

4月25日，仙台市で開催された平成29年度地盤工学会東北支部総会において，「女川原子力発電所防潮堤かさ上げ工事における基礎地盤改良について」が平成28年度支部賞を受賞しました。

この賞は，地盤工学に関する身近で地域に密着した事業・研究を通じて，調査・設計，施工等に関わる専門技術の向上などに貢献した優れた業績を表彰するものです。

防潮堤鋼管部の基礎となる地盤の改良は，既設構造物間の狭あいな場所で331本の改良体を造成する大規模な工事でしたが，作業効率を向上させるため造成機架台を開発するなどの工夫により，効率的かつ連続的な施工を可能としたことで，所要の品質を確保しながら工期を大幅に短縮したことが評価されました。


受賞者の女川原子力発電所 土木建築部（土木）の津田幸彦主任（右）と谷地大舜さん（左）

仙台営業所 防犯カメラ設置支援に対する感謝状贈呈を受ける

4月11日，仙台営業所は，仙台駅東口エリア内の防犯カメラ設置へ協力した支援団体として，仙台駅東活性化連絡協議会から感謝状贈呈を受けました。

この事業は，仙台駅東活性化連絡協議会と仙台駅エリア内各町内会および仙台市が一体となって「防犯カメラ新設」のモデル事業として検討が進められていましたが，昨年10月，配電部門の防犯カメラ装置の共架（電柱への設置）に関わる業務の取り扱いが改正されたことから実現に至ったものです。現地には全部で20台の防犯カメラが共架され，3月16日から運用が開始されています。

防犯カメラの設置は，変貌を遂げる駅東口周辺の犯罪防止効果となり，「安全・安心で快適な街づくり」につながると期待されています。

仙台営業所では今後も地域に寄り添い，地域と一体となって活動に取り組んでいくこととしています。


感謝状を受け取る小林仙台営業所長（左）

八戸市内3事業所 蕪嶋神社再建に向け寄付金を贈呈

八戸営業所，八戸技術センター，八戸火力発電所は，平成27年に火災被害を受けた蕪嶋神社再建のため，募金活動を実施し，総勢245人から集まった26万3,300円を，（公社）八戸観光コンベンション協会を通じて蕪嶋神社再建実行委員会へ贈呈しました。寄付金の贈呈は，昨年に続き2度目であり，これまでの寄付総額は44万1,100円となります。



贈呈の様子。八戸観光コンベンション協会からは，「募金目標達成に向けた今後の活動にも弾みが付き，協会としても心強い限りです」と，感謝の声をいただいた

蕪嶋神社は，うみねこの繁殖地として国の天然記念物に指定されている蕪島にあり，古くから地域の方々に親しまれるとともに，観光地としても知られています。現在，平成32年の再建を目指し工事が進められています。

寄付金の受付窓口，お問い合わせ先

（公社）八戸観光コンベンション協会　【TEL】0178−41−1661

平成29年度 東北電力配電工事安全推進協議会「安全大会」を開催

当社と配電工事に携わる工事会社で構成する東北電力配電工事安全推進協議会（会長:佐藤ユアテック上席執行役員・配電部長）は，4月13日，平成29年度安全大会を開催しました。

佐藤会長は，冒頭のあいさつで「重大災害・繰り返し型災害を撲滅するためには，これまでの取り組みに加え，目的を共有する配電関係者を一つのチームとして捉え，あらゆる場面で一人ひとりが当事者となり，『話して，気づいて，直していく』活動を展開していく必要がある」と訴え，続いて当社三浦常務が「今年度のスローガンである『実践サイクルの展開とチーム力の発揮で，重大災害・繰り返し型災害を撲滅しよう』に真剣になって取り組み，災害の撲滅に努めていただきたい」と呼び掛けました。

その後，パネルディスカッションや安全管理活動事例発表，表彰などが行われ，おわりに安全宣言と参加者全員によるスローガン唱和で労働災害の撲滅を誓い合いました。



安全管理に顕著な功績が認められた12団体・8個人に表彰状が贈られた

トークネット（TOHKnet）「トークネットホール仙台」ネーミングライツ記念イベントを開催

東北電力グループの「トークネット（TOHKnet）＝東北インテリジェント通信（株）」は，企業ブランド・認知度向上施策の一環として，仙台市の平成28年度提案型施設命名権者に応募し，仙台市を代表する音楽・文化施設である「仙台市民会館」のネーミングライツを取得しました。契約期間は平成29年4月1日より3年間で，仙台市民会館の新たな名称は「トークネットホール仙台」としています。

これを記念して，4月24日，「トークネットホール仙台」において，ネーミングライツ記念セレモニーおよびロビーコンサートを開催しました。当日は，天候にも恵まれ，平日の昼間にも関わらず約280人のお客さまが来場しました。奥山仙台市長とトークネット佐久間社長によるあいさつ，およびテープカットの後，仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター西本幸弘さん（ヴァイオリン）と渡邉千晶さん（ピアノ）による演奏が行われ，大盛況のうちに幕を閉じました。

トークネットは，今後，「トークネットホール仙台」のWi-Fi環境の整備を進めることで通信事業者としての地域貢献を果たすとともに，一層の認知度向上を図りながら，一般市場からの売上拡大を目指していきます。



パネルを持つ佐久間社長（左）と奥山仙台市長（右）



観客席で熱演する仙台フィルコンサートマスター西本さん

退職者の方々



情報通信部付
ユアテック出向
鈴木 徳昭



情報通信部付
東北インフォメーション・システムズ出向
鴇田 紀夫



宮城支店付
東北送配電サービス出向
高橋 和敏



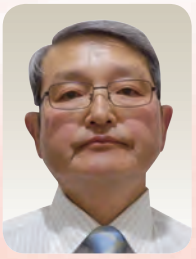
宮城支店付
東北七県配電工事出向
横田 眞二



新潟支店付
東北送配電サービス出向
風間 貞則



新潟支店付
通研電気工業出向
丸山 正雄



郡山営業所
総務課
穂積 一夫

平成29年3月の退職者（敬称略）※所属は退職時のもの

社内テレビ放送



都合のよい日時を選んで，ぜひご覧ください。
お問い合わせや，NEWS スクエアへの
ご意見・ご感想は，
下記の担当者までお気軽にどうぞ。
情報提供・ご投稿もお待ちしています。

広報・地域交流部（広報・交流企画）
登坂 保安.910-3026,w050013

第1・第3
月曜日～水曜日に
放送

放送時間
9時，10時，12時，
12時40分，
13時10分，17時，
17時30分

編集後記

今回の特集では，6県にまたがり，5つの部門の方にお話を聞くことができました。どの現場も，お会いしたときのはつらつとした雰囲気や，お話ししてくださる業務に対するひたむきな姿勢や後輩育成に関する考え方など，うまくは言葉にできませんが，「さすが，チャンピオン」と大いに納得。

GWに少し足を伸ばして，平成の大改修を終えた日光東照宮へ出掛け，豪華絢爛な唐門や，かの有名な3猿を拝んできました。故事成語では「見ざる言わざる聞かざる」というものの，当社が技術やノウハウを受け継いでいく過程には，後輩に足りないところを何気なく気づかせ，補って，成長をさせるために，「見たり言ったり聞いたり」してくれる素敵な先輩がいるんだなと思います。

広報・地域交流部（広報・交流企画）志賀
保安.910-3027,w119015

「1／東北電力」は三年前から続く連載企画です。これまでさまざまな部門の方にご登場いただきましたが，今回登場したのは出向社員。35回目にして初の試みです。社内報の取材先といえば，言うまでもなく100%社内ですが，今回は村役場をはじめ全て社外ということで，若干の不安を抱きつつ伺うも，それは大きな取り越し苦労でした。行く先々で暖かく迎え入れていただいたのはもちろんのこと，まるで役場職員のように村に溶け込み，生き生きと仕事をする出向者の姿を見るうちに，このような社員を紹介することこそが，この「1／東北電力」の企画趣旨なのでは?そして，このような人材を探すには，情報収集も含めて誌面登場者を公募してみてはどうだろうか，と思い立ちました。

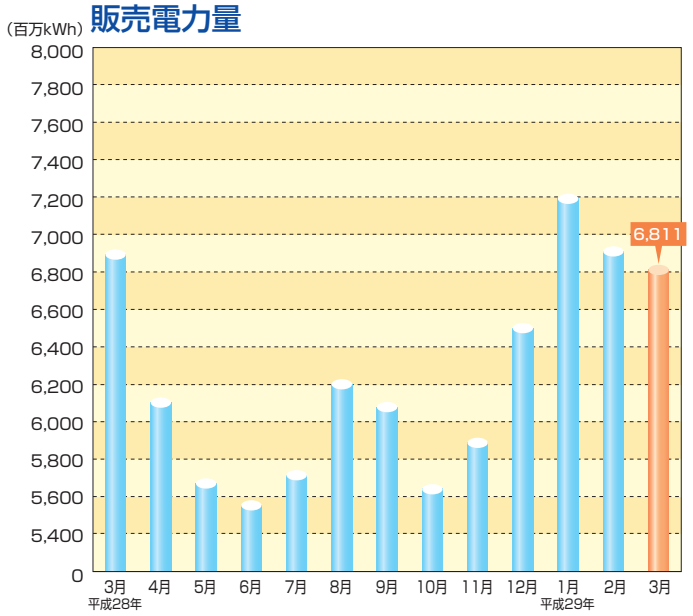
なかなか知り得ない業務や職場，そこで誇りを持って働く社員の姿はどこを切り取っても魅力的です。われこそはと思う方，こんな社員，職場を紹介したいと思う方，ぜひご一報をお寄せください。どこまでも取材に伺いますので。

広報・地域交流部（広報・交流企画）武蔵
保安.910-3025,w889105

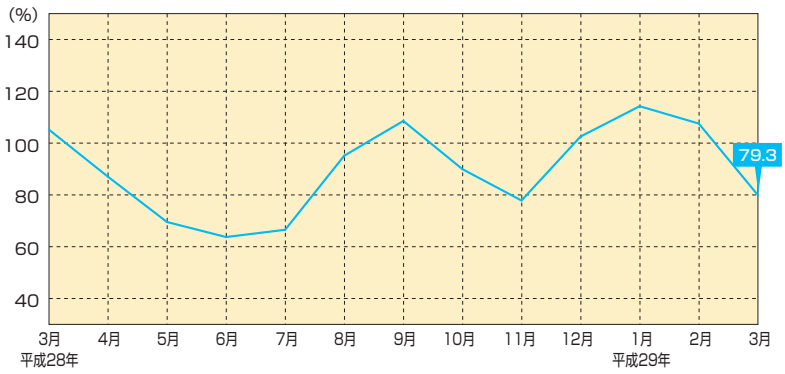
DATA FILE

電力需給実績（平成29年3月分）

販売電力量



出水率



エネルギー種別別発受電電力量

単位：百万kWh
（　）内は構成比%



■電力需要について

3月分の販売電力量の合計は，68億1,100万kWh，対前年比98.8%の実績となり，前年に比べ気温が低かったことによる暖房需要の増加があるものの，契約電力の減少などから，前年実績を下回りました。

用途別の実績については，以下のとおりです。

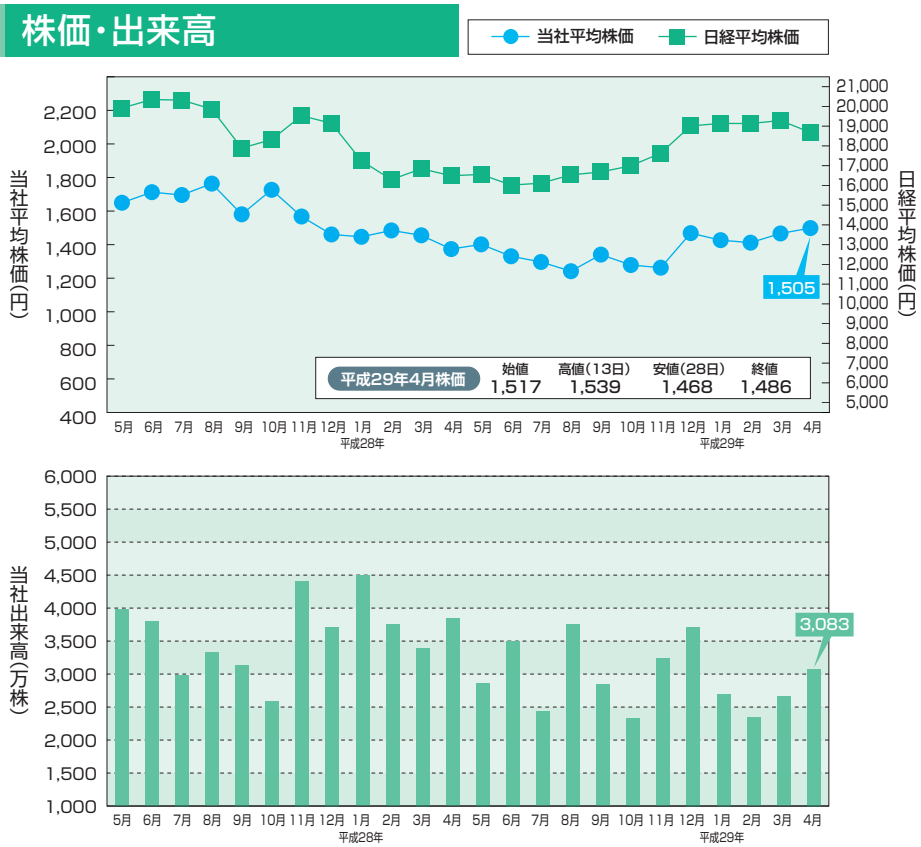
【電灯】

電灯は，前年に比べ気温が低かったことによる暖房需要の増加などから，対前年比100.7%と前年実績を上回りました。

【電力】

電力は，契約電力の減少などから，対前年比97.8%と前年実績を下回りました。

株価・出来高





証券口座の種類（特定口座と一般口座）

株式の売買により得た利益（売却額から購入額等を差し引いて出た利益）のことを株式譲渡益といい，株式譲渡益には税金が課せられることとなっています。

この株式譲渡益への課税（以下「譲渡益課税」）は，給与所得など他の所得とは合算せずに申告・納税手続きを行う必要がありますが，投資家が株式を預ける証券口座の種類（主なものとして「一般口座」と「特定口座」があります）に応じて，その方法が異なります。

上記のうち，特定口座は，譲渡益課税における投資家の申告・納税手続きを簡素化するために，平成15年から導入された口座です。特定口座を利用して株式の売買をした場合，証券会社が1年分の損益を取りまとめた「特定口座年間取引報告書」を作成し，翌年の1月末までに当該口座で株式の取引を行っている投資家に交付します。投資家は，この年間取引報告書を添付することで，簡易な申告で納税手続きを行うことができるようになりました。さらに，特定口座は，口座の開設手続きの際に「源泉徴収あり」か「源泉徴収なし」のいずれかを選択することができ，「源泉徴収あり」を選択した場合，証券会社が投資家に代わって源泉徴収・納税手続きを行うため，確定申告をする必要がありません（確定申告をすることも可能）。

一方，一般口座で売買を行った株式については，投資家が自ら1月1日から12月31日までの1年間の売買損益を計算し，翌年の定められた期間に確定申告をしなければなりません。

全国の証券会社で構成される日本証券業協会では，株式市場の活性化や投資家の利便性向上のため，特定口座の普及へ向けた活動に取り組んでおり，確定申告の手間が省けることを理由として，証券会社で口座を開設する投資家の大半が「特定口座（源泉徴収あり）」を選択しているようです。

TOHOKU MARCHE

話題の！地域のいいものマルシェ おみやげ

vol.2 新潟県



豊かな自然・文化に恵まれ，魅力あふれる方々が暮らす東北・新潟では，
絶えず新しい「いいもの」が育まれています。
「いいもの」を通して地域への理解を深め，地域の方々と触れ合いを楽しんでみてはいかがでしょうか。

老若男女が楽しめる長岡名物お菓子

笹だんご

名産品!!



良質な国産のお米と，よもぎの新芽を使用。
昔ながらのきねつき・後蒸し製法で作る笹団子です

だんご屋プリン



新登場!!

プリンのソースに長岡市摂田屋地区で作られたしょうゆを使用

しょうゆ風味の濃厚なカスタードプリン。醸造の町長岡市摂田屋の星野本店のしょうゆを使用した，甘辛の「みたらし味（右）」と，やわらかで濃厚なプリンの上に，五色だんごのごまだれをプリン用にアレンジしてのせた「ごま味（左）」の2種類

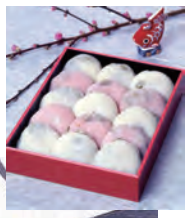
店頭でのみ取り扱っている商品もあります。ぜひお店にお越しいただき，古民家から臨む景観に触れながら，地元のもち米を使用した餅菓子をお召し上がりください。



株式会社 江口だんご
代表取締役 **江口 太郎**さん

若い世代への需要も掘り起こす！新潟県長岡市で営業中の「江口だんご本店」

「江口だんご本店」では，コシヒカリを自家製粉した「五色だんご」や，新潟県の代表的なもち米「コガネ餅」に長岡独特の大豆「青入道」を入れた「紅白豆大福」などの，地元の良質な素材を使用した商品が数多く販売されています。









店舗情報

お菓子とともに味わえる築100年の温もり

「江口だんご本店」は，ゆったりとした里山と川に囲まれた長岡市宮本東方町にあり，1,500坪の敷地を有しています。蔵構えの長屋門の奥には，古民家を再生した店舗があり景観も楽しめます。

新潟県の古民家は，雪国建設の特徴である太く大きな梁が何本も使われており，「江口だんご本店」でもしっかりと残っています。「昔からあるものを工夫して再生し，次世代に伝えて，よいものを残していきたい」という江口社長の想いが，店舗や商品に込められています。

ご購入はこちらで!

江口だんご本店
新潟県長岡市宮本東方町熊之宮52-1
TEL／0258-47-4105　FAX／0258-47-4100
営業時間:9:00～18:30
定休日:元旦のみ

お取り寄せならこちら!

◎ホームページ
http://www.e-dango.com
※「五色だんご」，「紅白豆大福」は店頭のみの取り扱い

Waterless Printing Naturally
VEGETABLE OIL INK
この印刷物は，環境にやさしい「水なし印刷」「植物油インキ」を使用しています。

発行所／東北電力株式会社広報・地域交流部　発行人／宮本 保彦　印刷／今野印刷株式会社　平成二十九年五月十日発行